

令和6年度

全国学力・学習状況調査

本県の結果と分析

令和6年11月15日

青森県教育庁学校教育課

令和6年度全国学力・学習状況調査 本県の結果と分析

目 次

I 全体概要	
1 調査の概要	1
2 教科ごとの状況	1
3 平均正答率及び標準化得点の推移	2
4 質問紙調査結果(本県の重要課題事項)	
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	3
II 小学校	
1 正答率	5
2 領域別の正答率	7
3 児童質問紙調査	9
4 学校質問紙調査	11
5 指導改善のポイント	12
III 中学校	
1 正答率	14
2 領域別の正答率	16
3 児童質問紙調査	18
4 学校質問紙調査	20
5 指導改善のポイント	21
IV 質問紙調査	
1 児童質問紙	23
2 学校質問紙	27
参考 こどものウェルビーイングの実現に関連が深いと考えられる項目	33

* 本報告書の活用にあたって *

本報告書は、本調査の結果を受けて、本県の学習指導上の課題を明らかにし、県内の各学校が今後とるべき対策の参考となる事柄を示すことを主なねらいとして作成したものです。

本報告書の活用にあたっては、各教科・科目の結果だけでなく、質問紙調査の結果についても、自校の結果と比較しながら、今後の指導の改善に役立てていただきたいと思います。

本調査の結果の概要や正答数の分布、全ての小問の正答率等については、国立教育政策研究所ホームページ内「令和6年度全国学力・学習状況調査【都道府県別】及び【指定都市別】調査結果資料」を参照してください。

県教育委員会ホームページに今年度の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた本県の課題や本報告書を踏まえた「指導例集」が掲載されていますので、活用してください。

国立教育政策研究所のホームページに、文部科学省の調査結果や報告書を踏まえた「授業アイデア例」が掲載されていますので、併せて活用してください。

I 全体概要

I 調査の概要

(1) 調査実施日 令和6年4月18日(木)

(2) 調査内容(教科、質問紙調査)

① 教科 小学校 国語(45分) 算数(45分) 中学校 国語(50分) 数学(50分)

② 質問紙 児童生徒質問紙調査 学校質問紙調査

(3) 参加公立学校数

小学校参加校数 本県 248校(全国 18,466校)

中学校参加校数 本県 145校(全国 9,268校)

(4) 参加児童生徒数

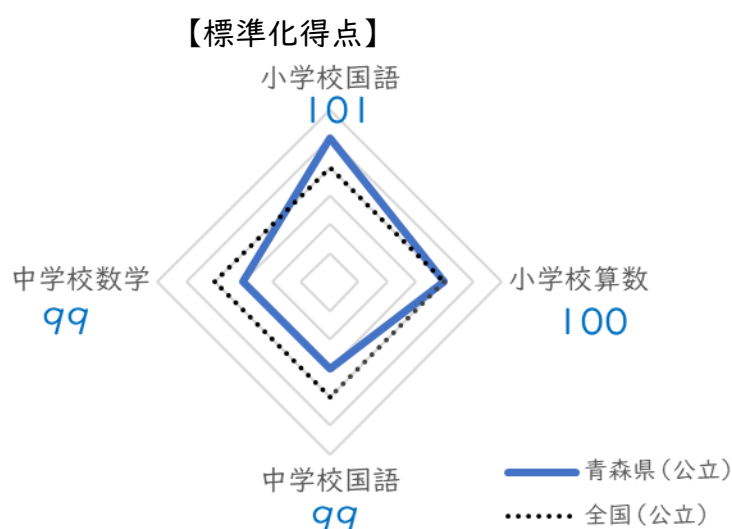
小学校児童数 本県 8,174名【国語】(全国 947,364名)
8,172名【算数】(全国 947,579名)

中学校生徒数 本県 7,986名【国語】(全国 875,574名)
7,992名【数学】(全国 875,952名)

2 教科ごとの状況

○平均正答数及び平均正答率、標準化得点

	【平均正答数】		【平均正答率%】	
	青森県(公立)	全国(公立)	青森県(公立)	全国(公立)
小学校国語	9.8	9.5	70	67.7
小学校算数	10.3	10.1	64	63.4
中学校国語	8.5	8.7	56	58.1
中学校数学	8.1	8.4	50	52.5



※ 標準化得点とは、全国(国・公・私)の平均正答数を100とした時の本県の正答数です。

・本県公立小・中学校の国語及び算数・数学の平均正答数及び平均正答率は、小学校において全国平均を上回り、中学校において全国平均を下回った。また、全国平均との差については、平均正答数で本県は±0.3程度の差が見られる。

・標準化得点において、全国の平均正答数と比べると、本県は±1程度の差が見られる。

○県教育委員会としては、今回の調査結果を全国平均程度と捉えている。

※○印は県教育委員会の考えを示している。以下同様の扱いとしている。

3 平均正答率及び標準化得点の推移

	小学校					
	国語			算数		
	本県の平均正答率	本県の平均正答率と全国との差	標準化得点	本県の平均正答率	本県の平均正答率と全国との差	標準化得点
R6	70	2.3	101	64	0.6	100
R5	70	2.8	101	63	0.5	100
R4	68	2.4	101	63	-0.2	100
R3	69	4.3	102	71	0.8	100

	中学校					
	国語			数学		
	本県の平均正答率	本県の平均正答率と全国との差	標準化得点	本県の平均正答率	本県の平均正答率と全国との差	標準化得点
R6	56	-2.1	99	50	-2.5	99
R5	70	0.2	100	49	-2.0	99
R4	69	0	100	52	0.6	100
R3	66	1.4	100	56	-1.2	99

※標準化得点は、全国（国・公・私）の平均正答数を100とした時の本県の正答数を、国が作成した「標準化得点」のファイルを活用し算出したものである。調査問題は毎年異なり、平均正答率を年度間で単純比較することはできないため、標準化得点を算出することで、過去の調査結果との相対的な比較ができるようにしている。

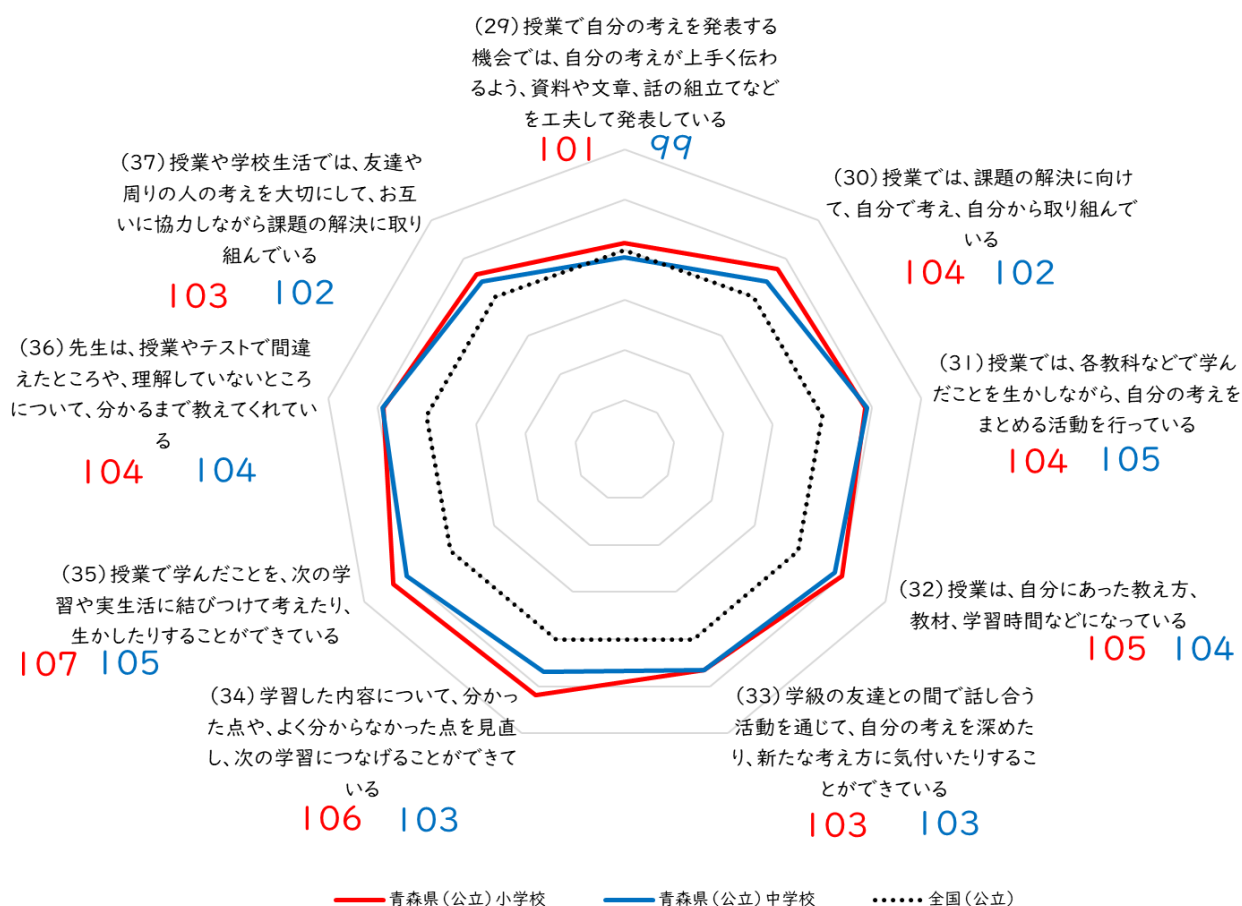
- ・小学校の標準化得点を見ると、国語及び算数は全国と比べて、同等かやや上回っている状態であるといえる。しかし、国語では平均正答率における全国との差が少なくなっている。
- ・中学校の標準化得点を見ると、国語及び数学は全国と比べて、やや下回っている状態であるといえる。国語及び数学では、令和3年度以降、平均正答率における全国との差が最も大きくなっている。
- ・青色で囲んでいる令和3年度小学校と令和6年度中学校は、同一の児童生徒である。比べると、中学校国語では標準化得点で3下がっており、数学では1下がっている。

○本調査により測定できるのは学力の特定の一部であることから、各校においては、平均正答率の高低のみに注目するのではなく、自校の結果を丁寧に分析し、学習指導上の課題を明らかにするとともに、その改善に向けて学校全体で取り組むことを期待している。

4 質問紙調査結果（本県の重要課題事項）

（1）主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

①児童生徒質問紙調査



※数値は全国（公立）を100とした時の青森県（公立）小学校及び中学校である。本県の肯定的回答数÷全国（公立）の肯定的回答数×100で計算している

- ・小・中学校ともに、(35)「授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができている」と実感している割合が全国と比較して高くなっている。一方、(29)「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と実感している割合が相対的に低い状況となっている。
- ・(34)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と実感している割合が小学校の方が高い状況である。

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について、本県小・中学校は全国よりほぼ上回っていることから、授業改善が推し進められていると考えられる。

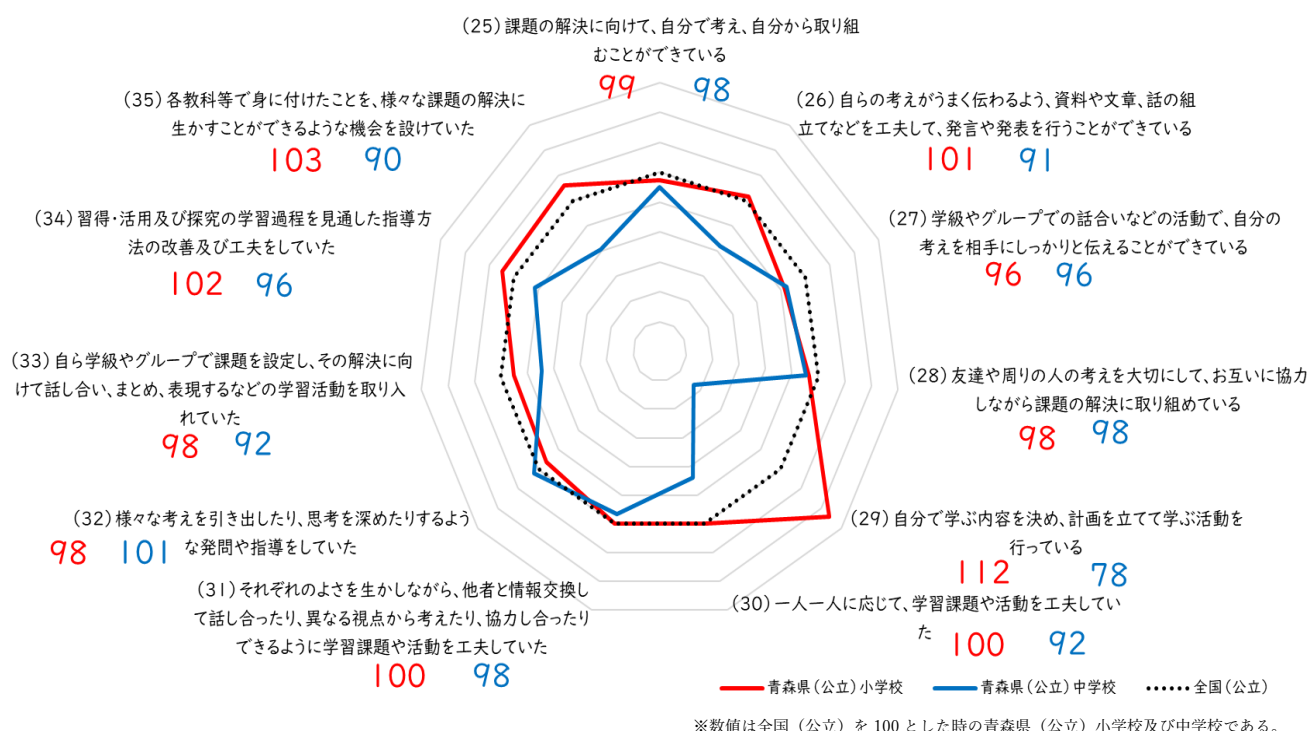
☆以下の回答をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

※右表の○印

- ・(29)「自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、工夫して発表している」
- ・(30)「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」
- ・(31)「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」
- ・(34)「分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」

全国		本県	
小	中	小	中
○	○		
○	○	○	○
	○		
			○

②学校質問紙調査



- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について、学校質問紙調査では全国平均を下回っている項目が多く見られる。
- ・小学校では(29)「自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている」、中学校では(32)「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしていた」が全国平均を上回っている。一方、小・中学校ともに自ら課題を設定し、話し合い、まとめる活動や発表に関する活動で全国平均を下回っている項目が見られる。
- ・(29)「自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている」と実感している割合が、小学校と中学校で差が大きく開いている。

○児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査を比べると、各学校の回答以上に児童生徒は肯定的に捉えていると考えられる。そのために、各校の課題を踏まえ、校内研修等を通して、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組むことが大切である。

☆以下の回答をしている学校の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

- ・(25)「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている」
- ・(26)「自らの考えがうまく伝わるよう、工夫して発言や発表を行ことができている」
- ・(27)「話し合い活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている」
- ・(28)「周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」
- ・(30)「一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫していた」
- ・(31)「他者と情報交換したり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできる学習課題や活動を工夫していた」
- ・(33)「自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れていた」

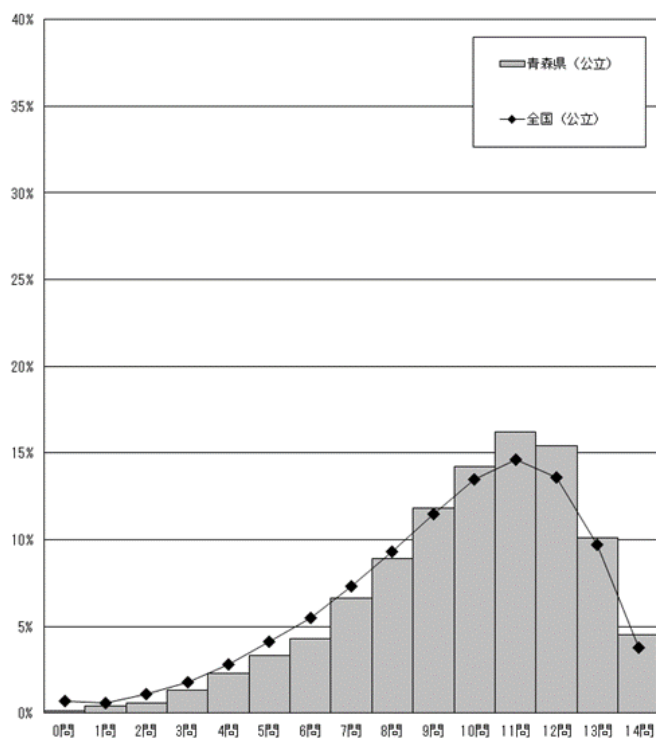
全国		本県	
小	中	小	中
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0
0	0	0	0

Ⅱ 小学校

Ⅰ 正答率

①国語

・正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)・正答数集計値



正答数	青森県(%)	全国(%)
14問	6.5	5.9
13問	11.8	10.9
12問	13.7	13.2
11問	14.1	13.4
10問	12.8	12.4
9問	10.7	10.7
8問	8.8	8.9
7問	6.8	7.1
6問	5.2	5.6
5問	3.8	4.2
4問	2.3	3.0
3問	1.8	2.1
2問	1.0	1.3
1問	0.4	0.7
0問	0.1	0.6

・四分位

	青森県 (公立)	全国 (公立)
第3四分位	12.0問	12.0問
第2四分位	10.0問	10.0問
第1四分位	8.0問	8.0問

□正答数分布グラフ・正答数集計値

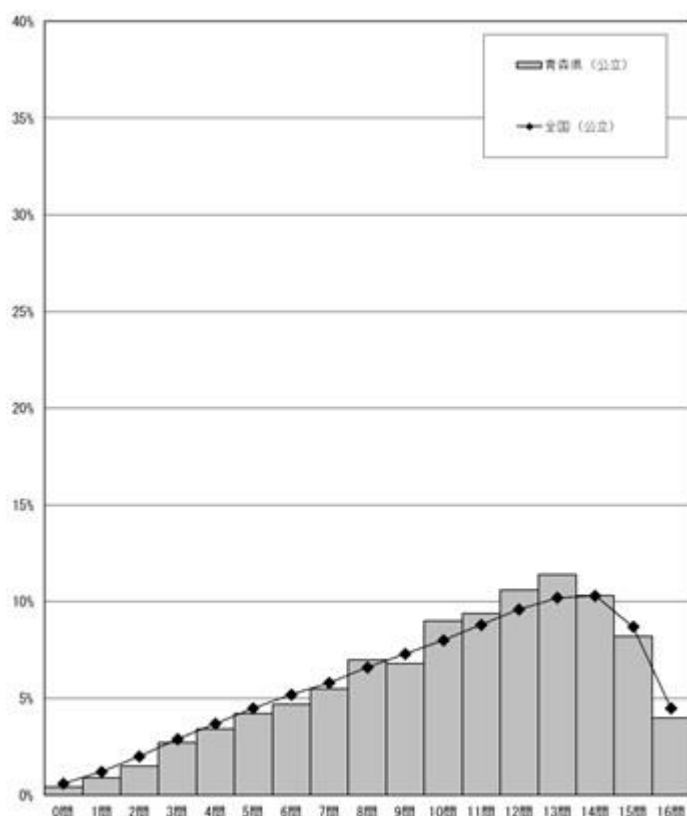
- ・10問以上の正答数の割合が、いずれも全国を上回っている。
- ・8問以下の正答数の割合はいずれも全国より少なく、特に全問不正解の割合が少ない。
- ・正答数8問と9問、9問と10問の差が、他の階級間と比べて大きい。

□四分位表

- ・第1四分位、第2四分位、第3四分位とも全国と同様の正答数である。

②算数

・正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)・正答数集計値



正答数	青森県%	全国%
16問	4.0	4.5
15問	8.2	8.7
14問	10.3	10.3
13問	11.4	10.2
12問	10.6	9.6
11問	9.4	8.8
10問	9.0	8.0
9問	6.8	7.3
8問	7.0	6.6
7問	5.5	5.8
6問	4.7	5.2
5問	4.2	4.5
4問	3.4	3.7
3問	2.7	2.9
2問	1.5	2.0
1問	0.9	1.2
0問	0.4	0.6

・四分位

	青森県 (公立)	全国 (公立)
第3四分位	13.0問	13.0問
第2四分位	11.0問	11.0問
第1四分位	8.0問	7.0問

□正答数分布グラフ・正答数集計値

- ・正答数0～7問の割合が全国と比べると少ない。
- ・正答数10～13問の割合が全国と比べると多い。
- ・正答数15、16問の割合が全国と比べると少ない。
- ・正答数7問と8問、9問と10問の差が、他の階級間と比べて大きい。

□四分位表

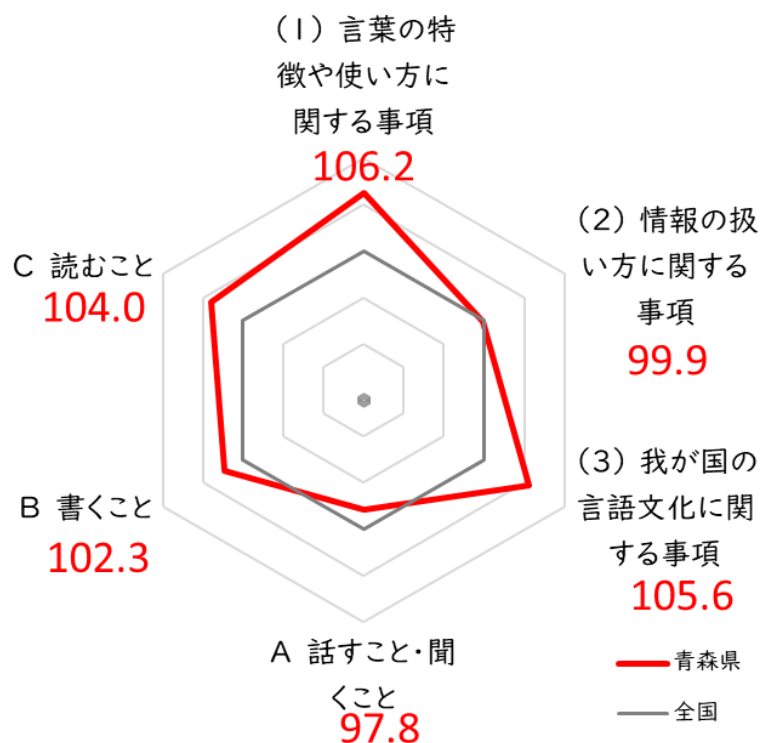
- ・第3四分位数、第2四分位数は、全国と同じ状況である。
- ・第1四分位数は全国7.0問に対し、青森県8.0問と全国に比べて1.0問高い状況である。

○正答数0～7問の割合が少なく、正答数10～13問の割合が多いことから、低位層の学習内容の定着、中間層への学習内容の理解を深める指導が行われていることがうかがえる。

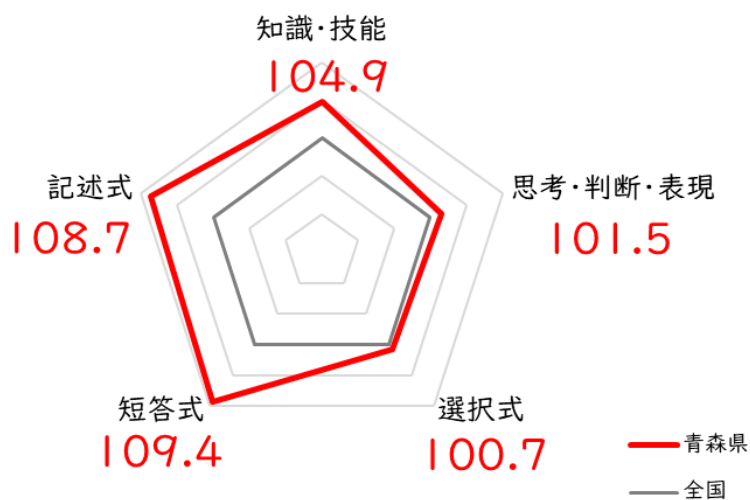
2 領域別の正答率

①学習指導要領の内容及び評価の観点、問題形式

(ア) 国語

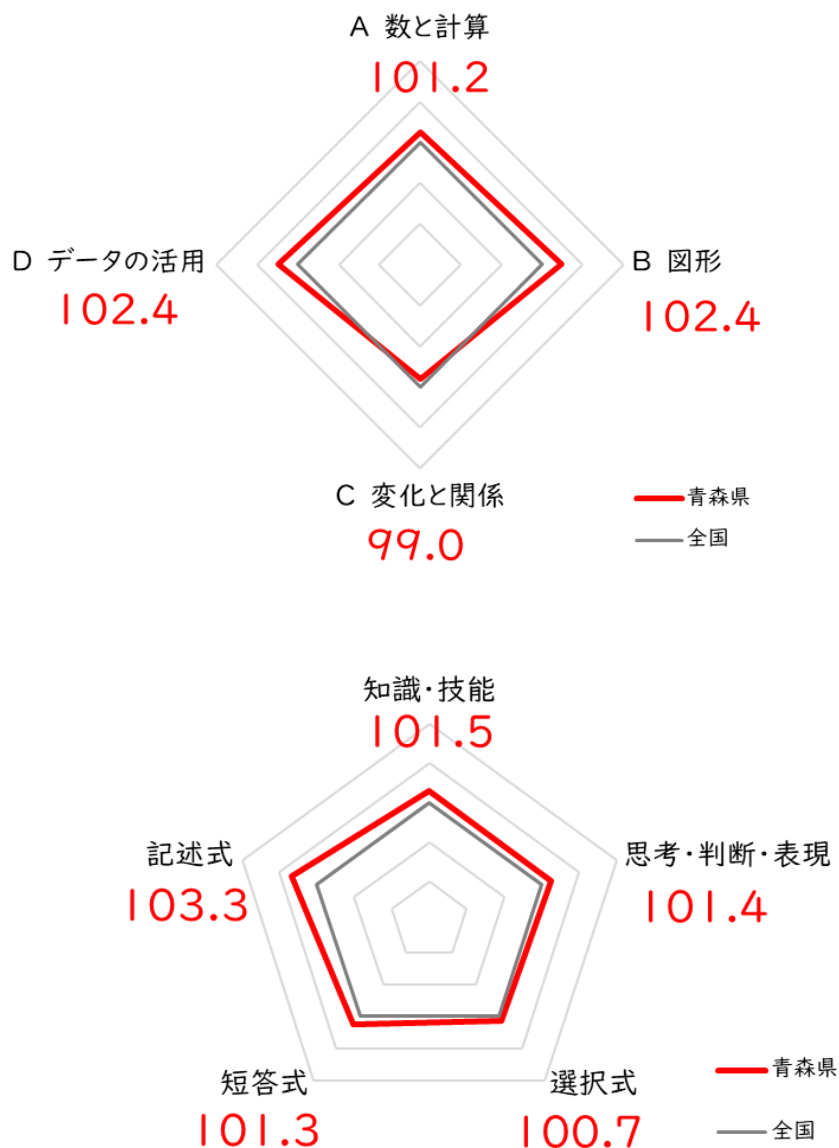


※全国を100とした時の本県の割合
以下同様



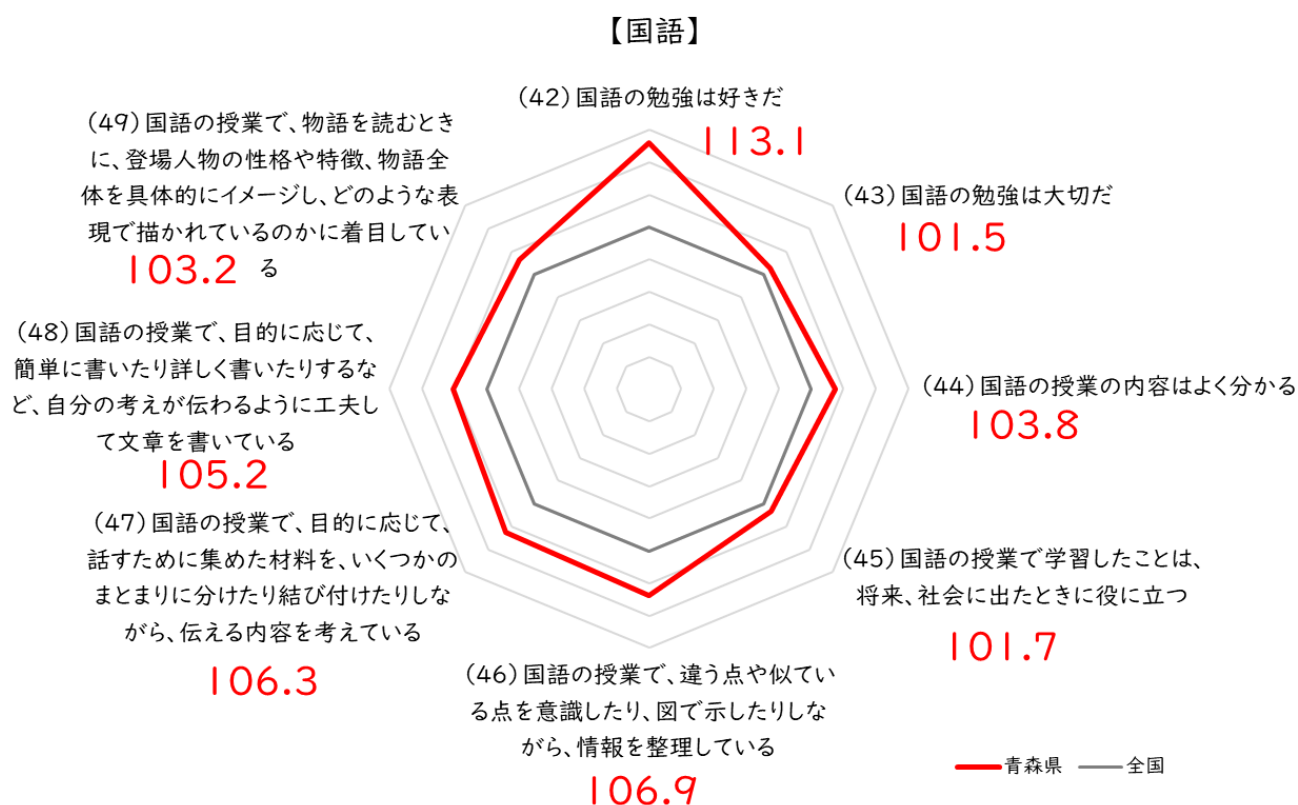
- ・学習指導要領の内容[知識・技能]の「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国を上回っている。
- ・学習指導要領の内容[知識・技能]の「(2)情報の扱いに関する事項」は、全国をわずかに下回っているものの「知識・技能」全体でみると全国を上回っている。
- ・学習指導要領の内容[思考・判断・表現]の「A 話すこと・聞くこと」は、全国を下回っているものの「思考・判断・表現」全体でみると全国を上回っている。

(イ) 算数



- ・領域別では、「A 数と計算」「B 図形」「D データの活用」が全国をやや上回り、「C 変化と関係」が全国をやや下回っている。
- ・観点別では、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点ともに全国をやや上回っている。
- ・問題形式別では、「記述式」「短答式」「選択式」ともに全国を上回っている。

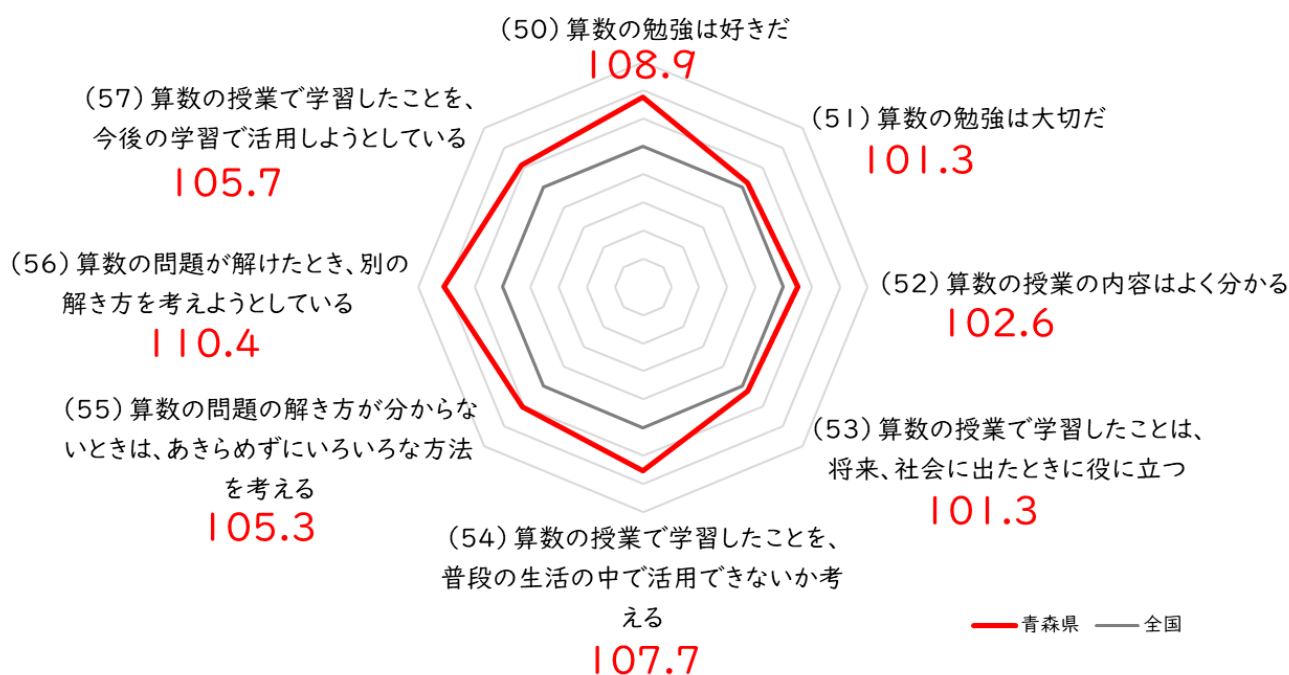
3 児童質問紙調査



- ・本県の児童は、全ての項目において全国を上回っている。特に(42)「国語の勉強は好きだ」と肯定的に受け止めている児童が多い。
- ・(46)「情報の整理」(47)「話すこと・聞くこと」(48)「書くこと」(49)「読むこと」に関する質問に肯定的に回答した児童が多く、いずれも全国を上回っている。

○(46)「情報の整理」に関する項目は全国を上回っているが、7ページの「情報の扱い方に関する事項」の正答率は全国をわずかに下回っており、児童の意識と正答率に差が見られる。情報と情報の関連付けの仕方、語句と語句との関係の表し方を学習する言語活動の工夫が必要であると考えられる。

【算数】



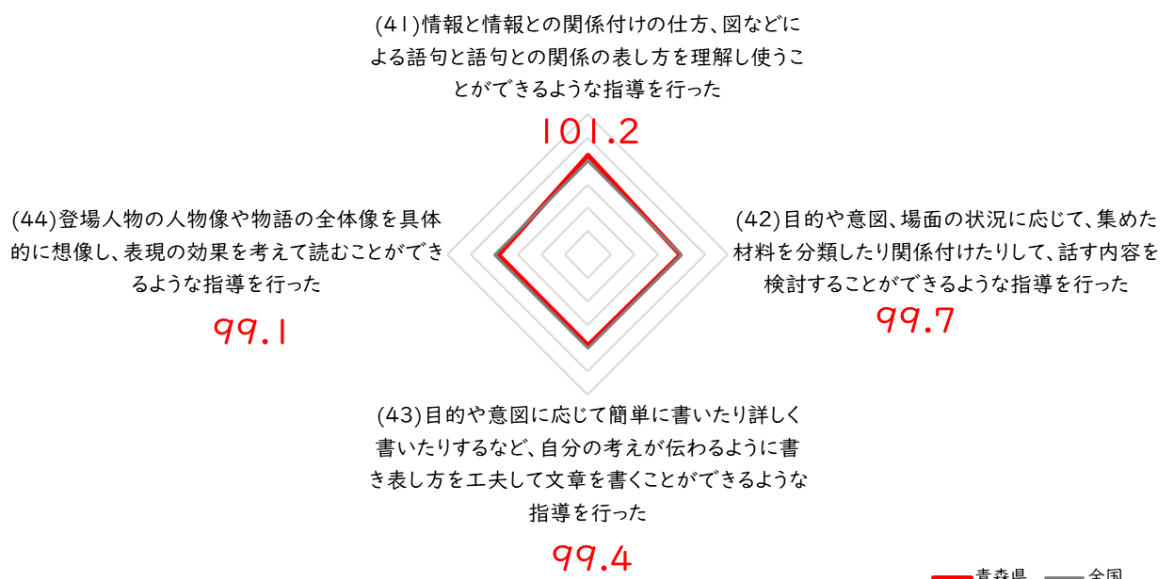
【算数】

- ・全項目で全国を上回っており、算数に関する興味・関心や授業の理解度は良好な状況にある。
- ・(56)「算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている」(57)「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える」において、全国を大きく上回っている。
- ・(55)「算数の問題の解き方がわからないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」において、全国を上回っており、調査問題においても、全国に比べ、すべての問題で無回答が少なかった。

○児童が算数を好きだと感じる授業づくりが行われている状況にある。

4 学校質問紙調査

【国語】



【算数】



【国語】

・概ね全国と同程度であるが、3つの項目で全国を下回っている。しかし、対応する児童質問紙の結果は全国を上回っており、児童の意識との間に差が見られる。

○(41)「情報の扱いに関する事項」に関しては全国を上回っているが、7ページの「情報の扱い方に関する事項」の正答率は全国をわずかに下回っており、一層の指導の充実が望まれる。

【算数】

・全国と同程度である。

☆上記項目に関する指導や活動を「よく行った」場合、全国、青森県ともに児童の正答率の高い傾向にある。

○現行の学習指導要領では、「日常の事象を数理的に捉えること」の重要性を強調しており、児童の発達段階に応じて広く算数の対象となる様々な事象を含めて考える必要がある。

5 指導改善のポイント

①国語

問題番号[2-(2)] [知識・技能]

(2) 情報の扱い方に関する事項

◇情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことはできているが、改善の余地がある。

○図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う。

「情報の扱い方に関する事項」についての正答率は良好であるものの、本県は86.8%と全国87.0%を下回っている。児童質問紙、学校質問紙の割合はともに全国を上回っているのに対し、正答率は全国を下回っている点から、教師のねらった成果が十分には出ていないと考えられる。授業においては、目的や意図に応じて複数の語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句を線でつないだりして、図示することが考えられる。図示することで情報は整理され、それにより考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができるということを見習うことが重要である。そのために、児童が必要に応じて図を選び、試行錯誤しながら使うという主体的な学習の展開の工夫が考えられる。

問題番号[1-(2)、1-(3)] [思考・判断・表現]

A 話すこと・聞くこと

◆集めた材料を分類したり関係付けたりして伝え合う内容を検討すること、資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。

○相手や目的を意識しながら、聞いたり話し合ったりすることを具体的に考え、関係する材料を整理する。また、その資料を用いて自分の考えが伝わるように表現する。

授業においては、相手や目的を一層意識させ、自分の伝えたいことや聞き手の興味・関心を予想して、情報量、優先順位等を工夫して資料を用意する場面を設けることが必要である。また、自分の考えが伝わるよう、資料を使いながら話したり、資料の順番を変えるなどして適切な時間や機会に資料を示したりといった表現の工夫について検討する場面を設けること、さらに、やりとりの練習をすることや実際に体験することを通して生まれた気づきを共有することが効果的である。このような言語活動を充実させ、児童が体験的に身に付けていけるよう学習の展開を工夫することが重要である。

問題番号 [3-(1)] [思考・判断・表現]

C 読むこと

◆登場人物の相互の関係や心情などについて、描写を基に捉えることに課題がある。

○登場人物の相互の関係や心情などについて、描写を基に捉える。

授業においては、低学年では挿絵を手がかりにして読むなどして内容の大体をつかむ、中学年では複数の叙述を基に登場人物の行動や心情を捉える、高学年では描写を基に登場人物の相互関係や心情などについて捉えるというように、系統的・段階的に指導することが重要である。登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている部分などに注目し、想像を豊かにしながら読む体験を積み重ねることが必要である。

<クロス集計から>

児童質問紙における「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問と正答率には、全国、青森県ともに相関が見られた。

各学年における主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善の効果が見られたと考えられる。

②算数

分析のポイント(課題)

- ・速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することに課題がある。
(正答率 青森県66.3 全国70.0)

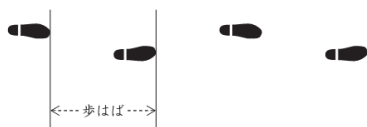
具体的な設問 [思考・判断・表現]

- ・大問4(2) 3分間で180m歩くことを基に、1800m歩くのにかかる時間を求める。

4 あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

- (1) あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。

家から学校までの道のりは、540 mです。あいなさんの歩はばを0.6 mとします。



家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$ の式で求めることができます。

$540 \div 0.6$ を計算しましょう。

- (2) たけるさんは、3分間で180 m歩きました。同じ速さで歩き続けると、1800 mを歩くのに何分間かかりますか。

答えを書きましょう。

○解答の分析

正答 30分(正答率66.3%)

誤答例 ①10分(12.1%) ②60分(6.9%)

- ・①のように解答した児童は、1分間で180m進むと誤って捉え、1800mを移動するのにかかる時間を求めていると考えられる。
- ・②のように解答した児童は、1分間あたりに進む道のりを求める $180 \div 3$ を計算し、その結果を解答していると考えられる。

○誤答例の解説

- ・速さなどの単位量当たりの大きさについて、理解できていない可能性がある。
 - ・道のりや時間という数量を適切に用いて計算できていないことが考えられる。
 - ・二つの数量の関係に着目できず、その関係を用いることができていないことが考えられる。
- ⇒1800mが180mの10倍であり、速さが一定であることから、道のりが10倍になればそれに伴って歩くのにかかる時間も10倍になることを用いたり、1分間あたりに進む道のりを求めてから、1800m歩くのにかかる時間を求めるなど、道のりと時間と速さの関係に着目して用いたりすることができるようになることが大切である。
- ⇒道のりが2倍、3倍…になれば、それに伴って歩くのにかかる時間も2倍、3倍…となり、道のりと時間が比例関係にあることに気付くことができるようになることも大切である。

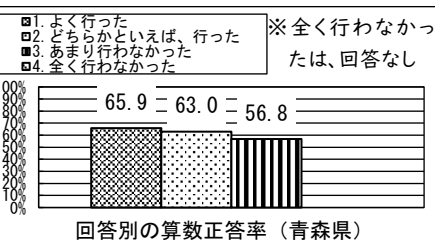
○指導改善のポイント

- ・学校質問紙調査(47)について、県内小学校の「よく行った学校」と「あまり行かなかった学校」の間で算数全体の平均正答率で9.1ポイントの差が見られた。
- ・授業改善のためには、「答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道立てて説明させる授業」を行うことが重要である。また、「日常生活の問題場面に照らし合わせて、求めた数量の大きさについて、妥当性を判断できるように指導の工夫」をすることも大切である。
- ・例えば、本設問または本指導例を用いて、単位量当たりの大きさの意味や求め方、日常生活における問題を比例の関係を用いて解決する考え方などについて、児童に説明させるような授業の工夫が考えられる。

クロス集計 学校質問紙調査×算数正答率

学校質問紙調査(47)

問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか。



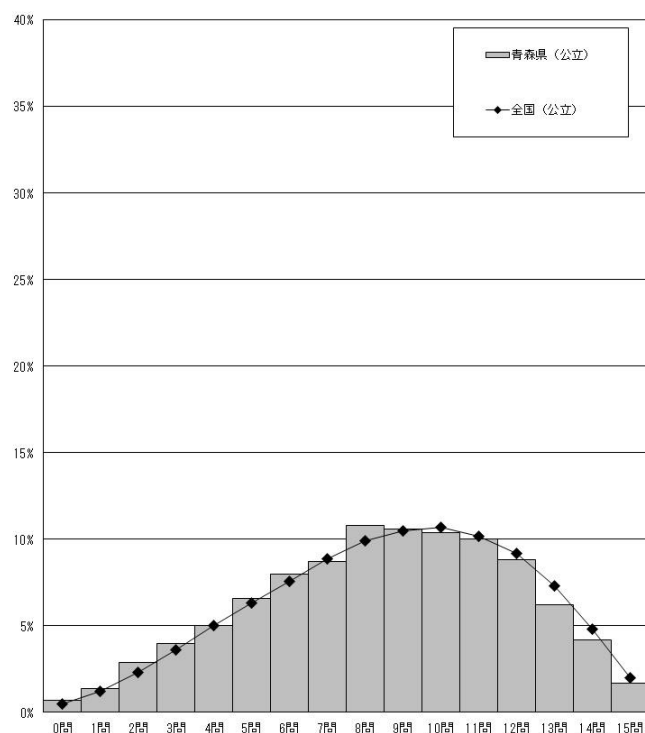
この質問に肯定的に回答した学校の方が、算数全体の正答率が高い。

Ⅲ 中学校

Ⅰ 正答率

①国語

・正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)・正答数集計値



正答数	青森県(%)	全国(%)
15問	1.7	2.0
14問	4.2	4.8
13問	6.2	7.3
12問	8.8	9.2
11問	10.0	10.2
10問	10.4	10.7
9問	10.6	10.5
8問	10.8	9.9
7問	8.7	8.9
6問	8.0	7.6
5問	6.6	6.3
4問	5.0	5.0
3問	4.0	3.6
2問	2.9	2.3
1問	1.4	1.2
0問	0.7	0.5

・四分位

	青森県 (公立)	全国 (公立)
第3四分位	11.0問	11.0問
第2四分位	9.0問	9.0問
第1四分位	6.0問	6.0問

□正答数分布グラフ・正答数集計値

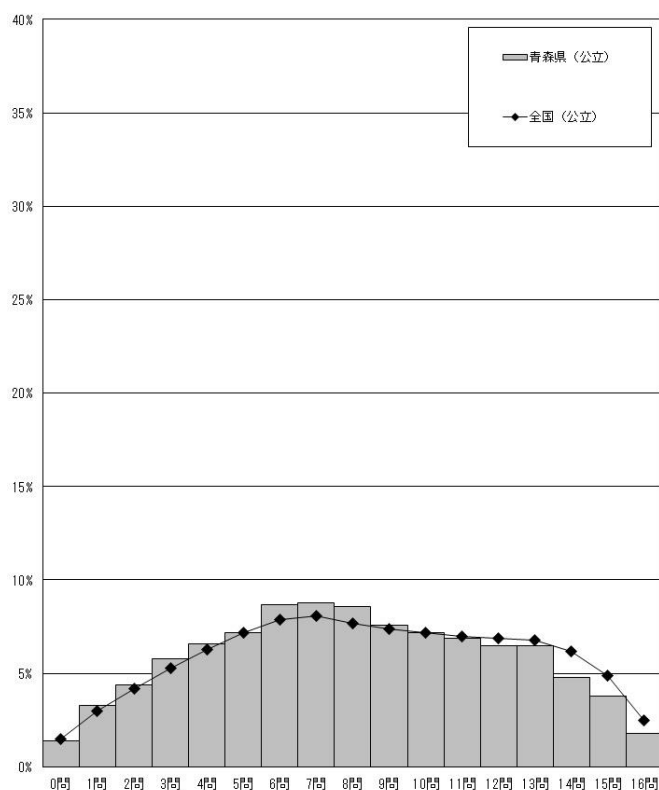
- ・正答数の分布の傾向としては全国と類似している。
- ・正答数10～15問の割合が全国と比べると少ない。
- ・正答数0～6問の割合が全国と比べると多い。

□四分位表

- ・第1四分位、第2四分位、第3四分位とも、全国と同様の正答数である。

②数学

・正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)・正答数集計値



正答数	青森県(%)	全国(%)
16問	1.8	2.5
15問	3.8	4.9
14問	4.8	6.2
13問	6.5	6.8
12問	6.5	6.9
11問	6.9	7.0
10問	7.2	7.2
9問	7.6	7.4
8問	8.6	7.7
7問	8.8	8.1
6問	8.7	7.9
5問	7.2	7.2
4問	6.6	6.3
3問	5.8	5.3
2問	4.4	4.2
1問	3.3	3.0
0問	1.4	1.5

・四分位

	青森県 (公立)	全国 (公立)
第3四分位	11.0問	12.0問
第2四分位	8.0問	8.0問
第1四分位	5.0問	5.0問

□正答数分布グラフ・正答数集計値

- ・分布全体の様子から全国と本県の正答数の傾向は同様である。
- ・正答数が13問から16問の生徒の割合は、本県が16.9%、全国が20.4%で全国よりも低い。
- ・正答数が6問から8問の生徒の割合は、本県が26.1%、全国が23.7%で、全国よりも高い。
- ・正答数が5問以下の生徒の割合は、本県が28.7%、全国が27.5%と全国よりも若干高い。

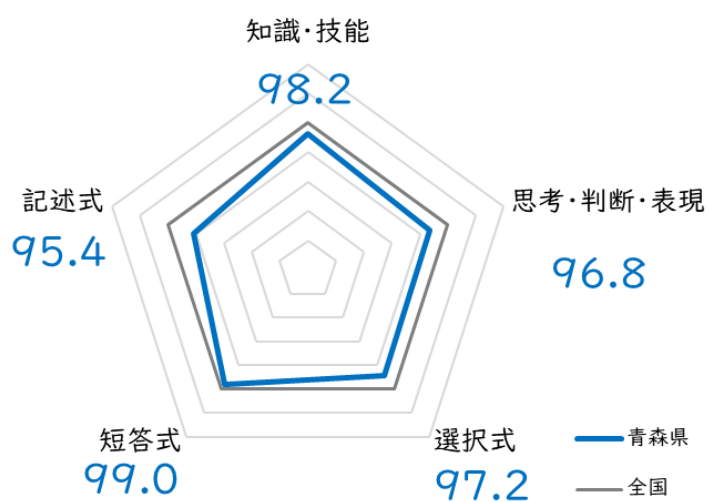
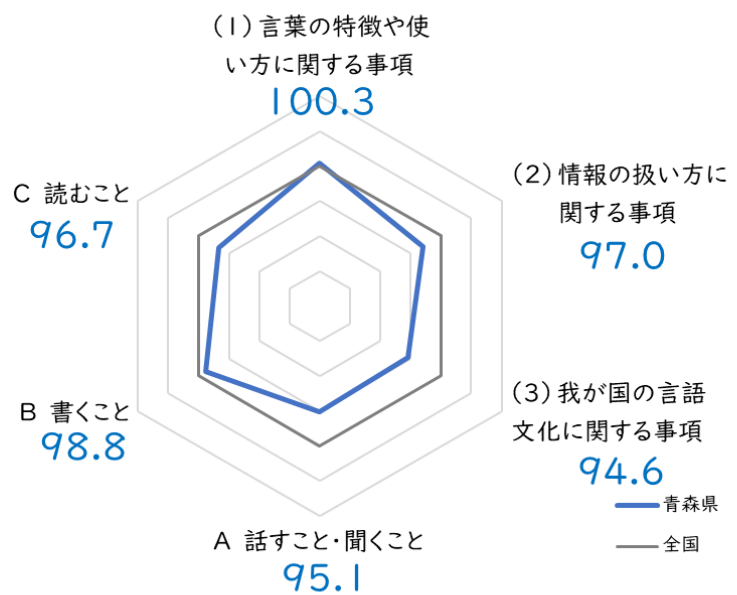
□四分位表

- ・本県と全国の中央値はともに8.0問であり、差は見られない。

2 領域別の正答率

①学習指導要領の内容及び評価の観点、問題形式

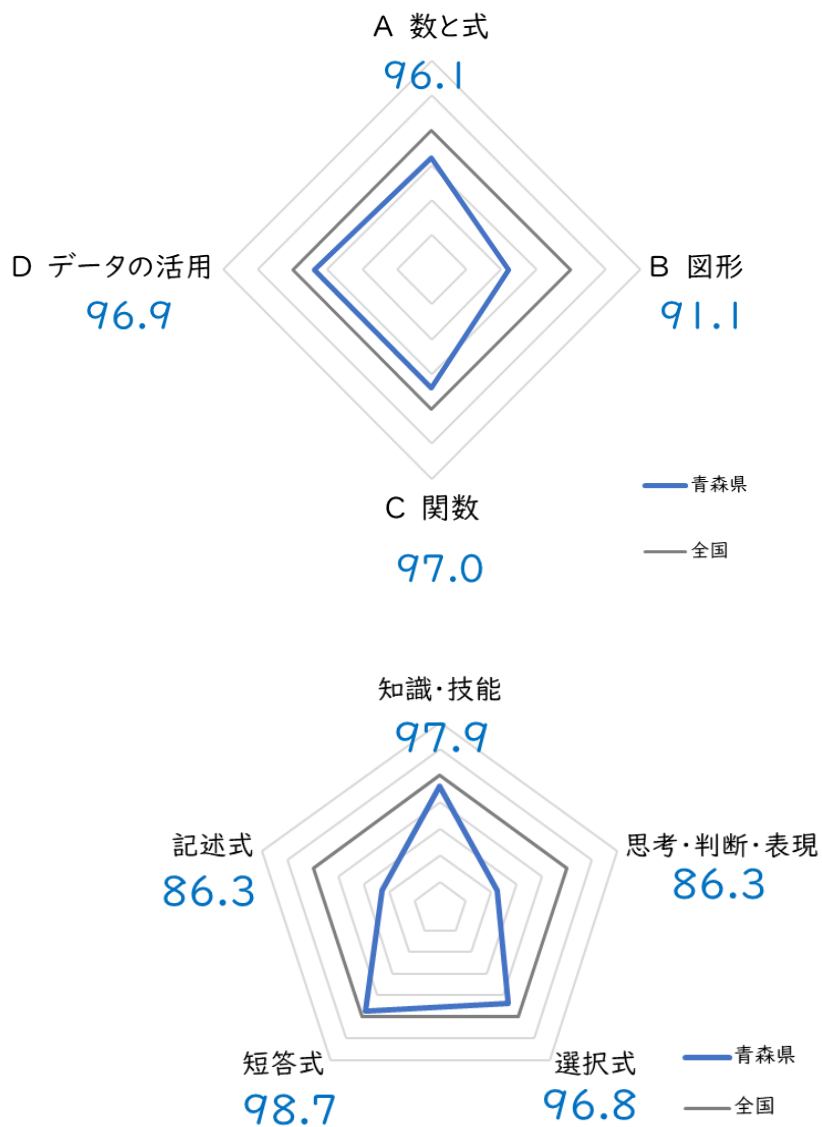
(ア) 国語



※全国を100とした時の本県の割合
以下同様

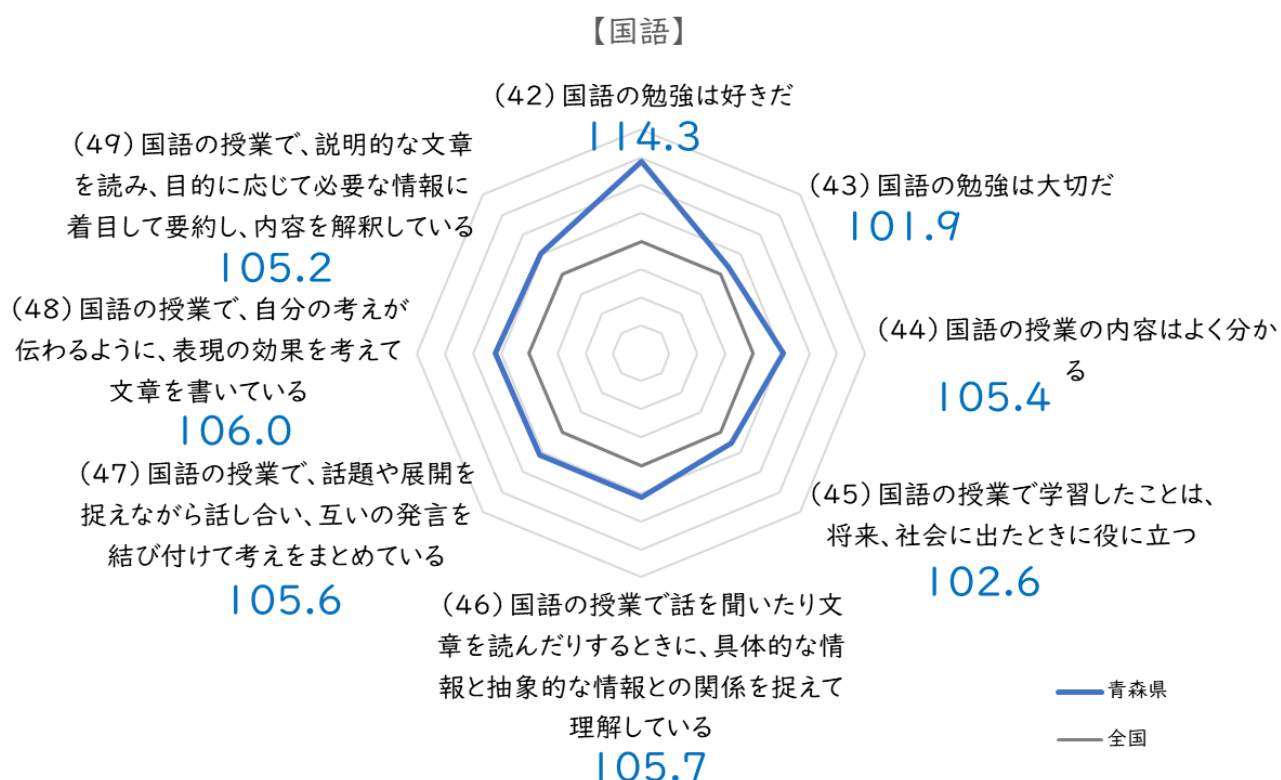
- ・学習指導要領の内容では、「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」において、全国を上回り「(2) 情報の扱い方に関する事項」、「(3) 我が国の言語文化に関する事項」、「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」において、全国を下回っている。
- ・評価の観点、問題形式においては、全ての項目で全国を下回っている。

(イ) 数学



- ・学習指導要領の領域においては、全ての項目で全国を下回っている。
- ・評価の観点、問題形式においては、全ての項目で全国を下回っている。特に「思考・判断・表現」「記述式」では大きく下回っている。

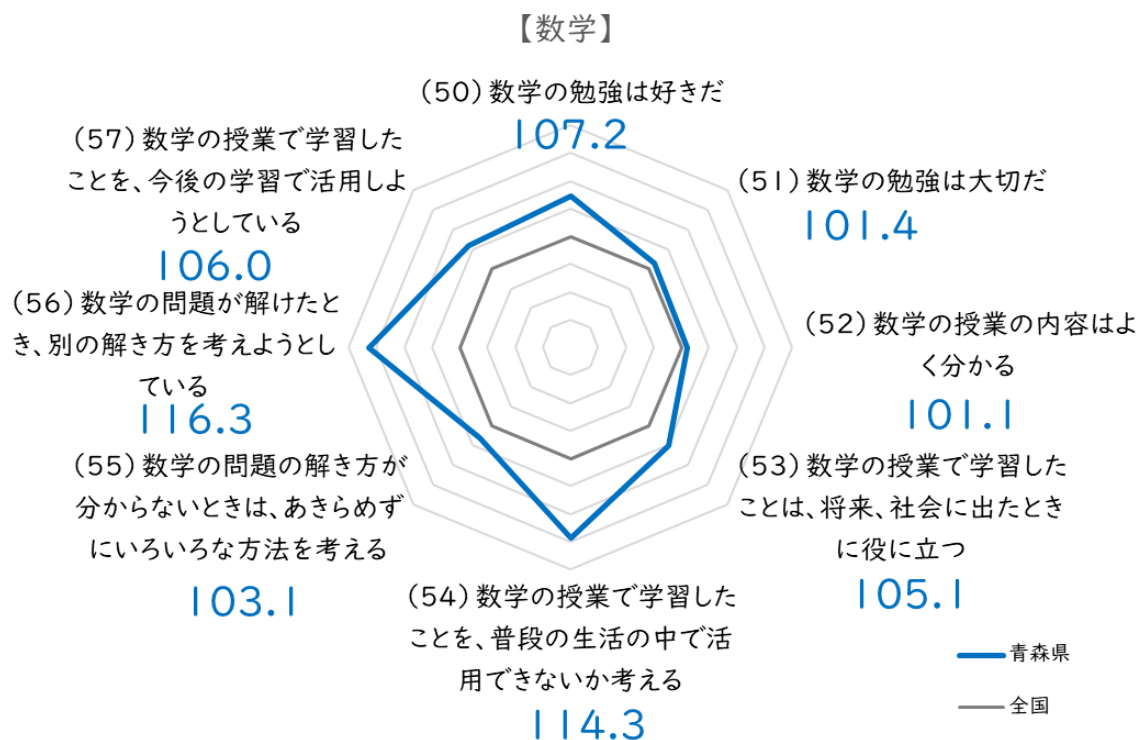
3 生徒質問紙調査



【国語】

・すべての項目において全国平均を上回っており、本県の生徒の国語学習に対する興味・関心の高さや授業の理解度等は概ね良好な状況である。

- この結果から、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善、特に記録、要約、説明、論述、話し合い等の「言語活動」を重視した授業が行われていると、生徒は受け止めている。
- ただ活動するだけにならないよう、学習過程を一層明確にし、指導事項を位置付けることで、言語活動を通じてどのような資質・能力を育成するかを示すことが求められる。
- 生徒一人一人が、どのような資質・能力を働かせるか意識して学習を進められるよう、更なる授業改善に取り組むことが重要である。



【数学】

・すべての項目において全国平均を上回っており、本県の生徒の数学学習に対する興味・関心の高さ等は概ね良好な状況である。

- (54)「普段の生活の中で活用できないか考える」(56)「別の解き方を考えようとしている」の項目が全国を大きく上回っており、授業改善が進んでいると考えられる。
- 平均正答率等と比べると、既習内容をつなげて考え、日常生活に範囲を広げて今後の学習に活用する授業づくりに更に取り組むことが求められる。
- 生徒が課題解決において、柔軟な思考や多様なアプローチを試みる授業展開が今後ますます求められると考えられるため、更なる授業改善に取り組むことが重要である。

4 学校質問紙調査

【国語】

(41) 話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導を行った

96.9

(44) 説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導を行った

96.9

(42) 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導を行った

91.9

(43) 自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導を行った

97.2

— 青森県
— 全国

【数学】

(45) 実生活における事象との関連を図った授業を行った

98.2

(48) 生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導を行った

99.7

(46) 観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行った

97.3

(47) 問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行った

98.3

— 青森県
— 全国

【国語】

○すべての項目において全国平均を下回っていることから、学校は国語科の授業改善が十分ではないと捉えていることがうかがえる。生徒質問紙調査による生徒の受け止めと差があることから、今後は授業者の育てたい資質・能力を明確にして生徒にも示し、生徒が自らの学習を調整できるよう、より一層の指導の充実が望まれる。

【数学】

・すべての項目において全国を下回った。

○調査結果から、事象を数学的に解釈し、数学的に説明することや数学的な表現を用いて説明することに課題がみられた。このことから、数学的な知識の理解の質を高め、思考力、判断力、表現力を身に付けさせる授業を促進させ、一人一人の生徒に応じた指導や支援を充実させる必要がある。

5 指導改善のポイント

①国語

問題番号 [1三] [知識及び技能]

情報の扱い方に関する事項

◆情報と情報の関係について、意見と根拠の関係を理解することに課題がある。

発言の中で、おすすめの本のコーナーを利用することについて、今井さんが「自分とは異なる価値観に触れることもできますね」という意見を述べていることを捉えることができなかったものと考えられる。

◇意見と根拠など情報と情報との関係を理解し、話や文章の中で捉える。

相手の考えを理解したり自分の思いや考えを表現したりするためには、原因と結果、意見と根拠など、話や文章に含まれている情報と情報との関係について理解することが重要である。その際、意見とそれを支える根拠がどのように結び付いているかを捉えたり、整理したりすることができるように指導することが大切である。以下の各学年の活動との関連を図ることが効果的である。

〔思考力、判断力、表現力等〕「A話すこと・聞くこと」(2)ア「話したり聞いたりする活動」、「B書くこと」(2)ア「説明的な文章を書く活動」、「C読むこと」(2)ア「文章を読み理解したことや考えたことをまとめる活動」など

問題番号 [2四] [思考力、判断力、表現力等]

読むこと

◆目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題がある。

選んだ〈着目する内容〉について、目的に応じて必要な情報を不足なく取り上げて書くことができていないことから、選んだ〈着目する内容〉と自分が書いた要約とを照らし合わせて、必要な情報を十分に取り上げているかを確認することができていないものと考えられる。

◇目的に応じて必要な情報に着目して要約する。

要約するとは、文章の全体又は部分を短くまとめることである。概略を理解するために文章全体の内容を短くまとめたり、情報を他者に伝えるために必要な部分を取り出してまとめたりするなど、その目的や必要に応じて内容や分量、方法が異なる。そのため、要約する際には、目的を明確にすることが大切である。その上で、要約したものが目的に沿っているかどうかを考え、必要な情報を正確に捉えて要約することが重要である。

指導のポイント

○原因と結果、意見と根拠、具体と抽象など、情報と情報の関係について理解する。

[2四]と[2二]、[2三]のクロス集計の結果から、「文章の中の情報と情報との関係が具体と抽象の関係であることを捉えることができていない([2二])」、「文章の中で示されている主張と例示との関係を捉えることができていない([2三])」生徒の方が、目的に応じて必要な情報に着目して要約すること([2四])ができることが分かる。

このことから、情報と情報とがどのように結び付いているかを捉えたり整理したりすることが、必要な情報を正確に捉えることにつながる。

[2四]と[2二]とのクロス集計の結果

[2四]	[2二]		
	全体	正答	誤答または無解答
正答	100.0	86.1	13.9
誤答または無解答	100.0	67.4	32.6

※表の数値は、小数第二位を四捨五入したものであるため、合計が一致しない場合がある。

[2四]と[2三]とのクロス集計の結果

[2四]	[2三]		
	全体	正答	誤答または無解答
正答	100.0	79.6	20.4
誤答または無解答	100.0	53.6	46.4

※表の数値は、小数第二位を四捨五入したものであるため、合計が一致しない場合がある。

②数学

(1) 各領域において大切なこと

A 数と式

◇ 事柄が成り立つ理由を、根拠を明確にして説明できるようにする

事柄が一般的に成り立つ理由について、見通しを持ち、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明できるように指導すること。

◇ 問題解決の過程や結果を振り返り、統合的・発展的に考察できるようにする

数学の事象から問題を見出し、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察できるようにすること。

B 図形

◇ 筋道を立てて考え、証明する活動の充実

ある事柄を証明するために、証明の方針を立て、それに基づいて証明できるようにすることが重要である。根拠となる事柄を明らかにしながら、数学的な表現を用いて説明できるように指導すること。

◇ 問題解決の過程や結果を基に統合的・発展的に考察できるようにする

図形の性質を考察する場面では、観察や操作、実験などの活動を通して、成り立つと予想される事柄を見出し、その事柄が成り立つことを論理的に考察し表現できるようにするとともに、条件を変えても成り立つ事柄を見出すなど、統合的・発展的に考察できるように指導すること。

C 関数

◇ 問題解決のために数学を活用する場面を考え、数学的な表現を用いて説明できるようにする

数学を用いて問題解決できるように、解決の構想を立てたり、解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れることはもちろんのこと、その際、何を明らかにするかという目的意識をもち、事象をどのように捉えたのかを明確に説明できるように指導すること。

D データの活用

◇ データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるようにする

データに基づいて問題を解決する過程において、データの分布に着目しているか、分析した結果から得られる結果が妥当かなどについて検討することと、データから四分位数を求め、読み取るだけでなく、箱ひげ図の箱の位置などに関連付けてデータの分布の傾向について考察する場面を設定すること。

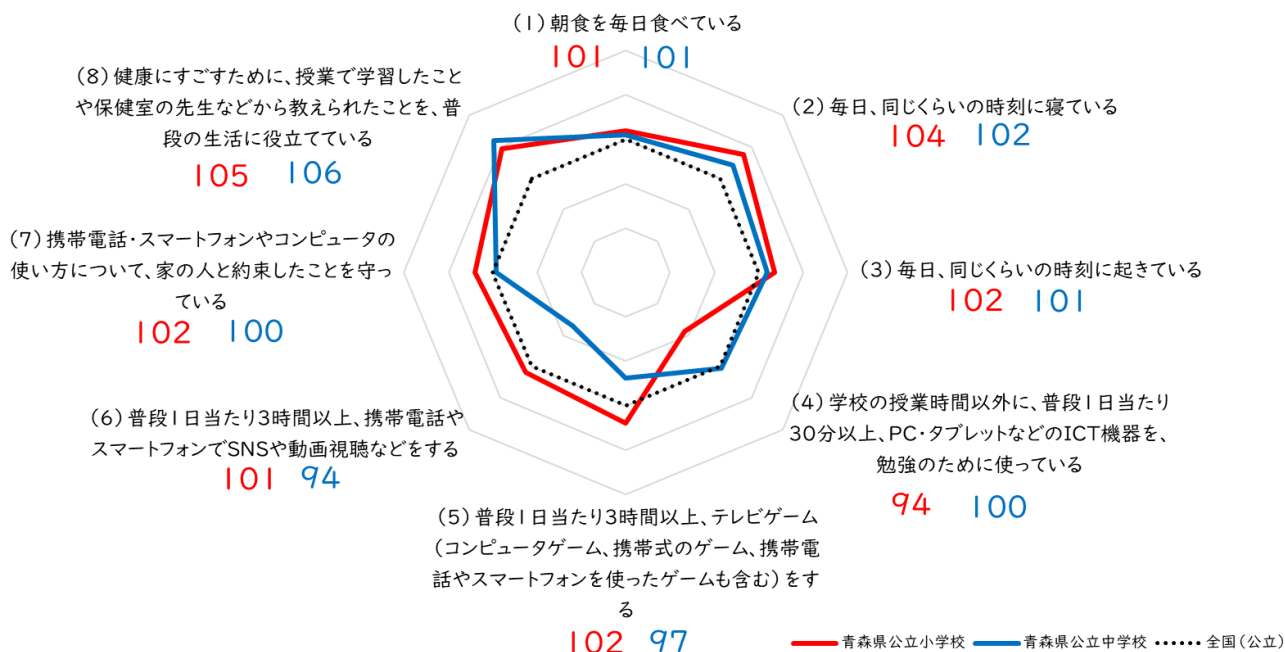
(2) 数学の総括及び今後の対策

数と式の領域では数量の関係を式で表現する力、図形の領域では証明活動の充実、関数やデータの活用では、事象の捉え方やデータの分析能力が課題としてあげられる。このことから、数学の学習では、数学の問題発見・解決の学習過程を意識しつつ、特に、学んだことを活用して日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に処理し、問題を解決する学習や学びを振り返り、数学の事象について統合的・発展的に考え、問題を解決する学習の機会を意図的に設定することが重要である。

IV 質問紙調査

I 児童生徒質問紙

① 基本的生活習慣等



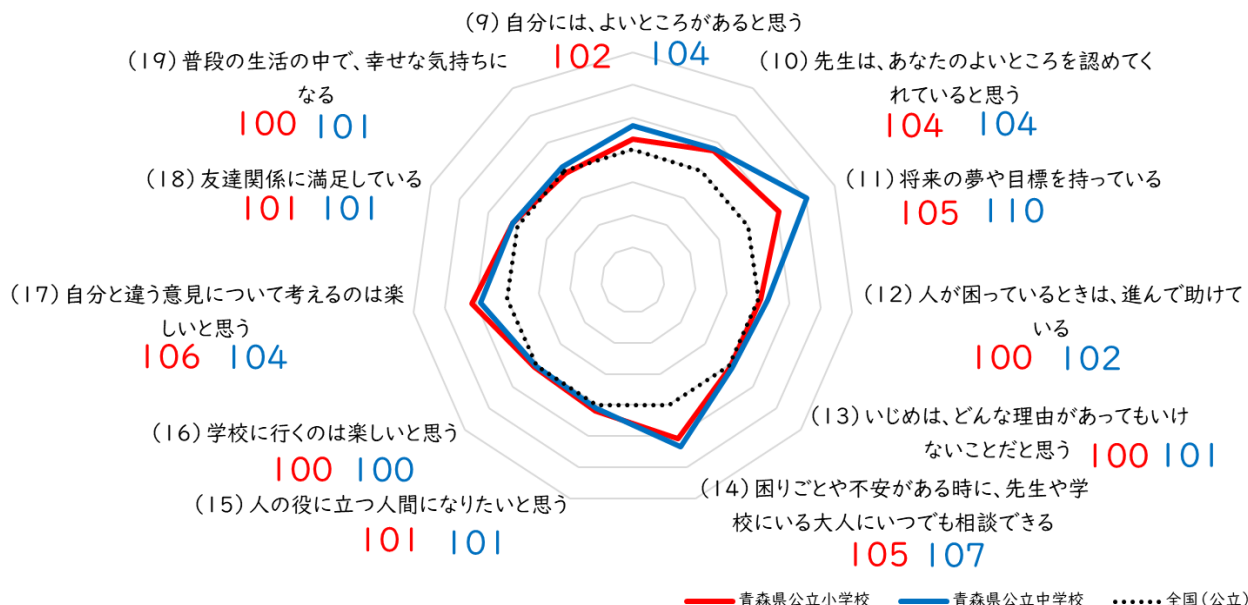
- ・小・中学校ともに、(8)「健康に過ごすために、授業等で学んだことを普段の生活に役立てる」が全国より上回っている。
- ・中学校では、(5)(6)「1日当たり3時間以上、テレビゲームやSNS、動画視聴をする」が全国より下回っている。

☆以下の回答をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

- ・(5)「普段1日当たりテレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする時間が短い児童生徒。

全国		本県	
小	中	小	中
0	0	0	0

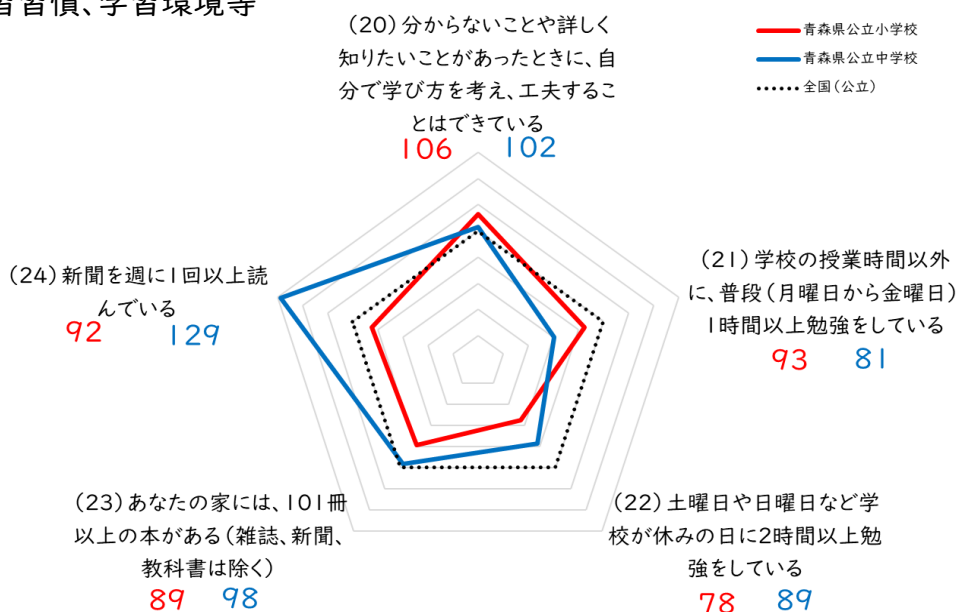
②挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等



・全ての項目において、全国を上回っている。

・小学校では(17)「自分と違う意見について考えるのは楽しい」、中学校では(11)「将来の夢や目標を持っている」が全国よりも大きく上回っている。一方、(16)「学校に行くのが楽しい」は全国並みである。

③学習習慣、学習環境等



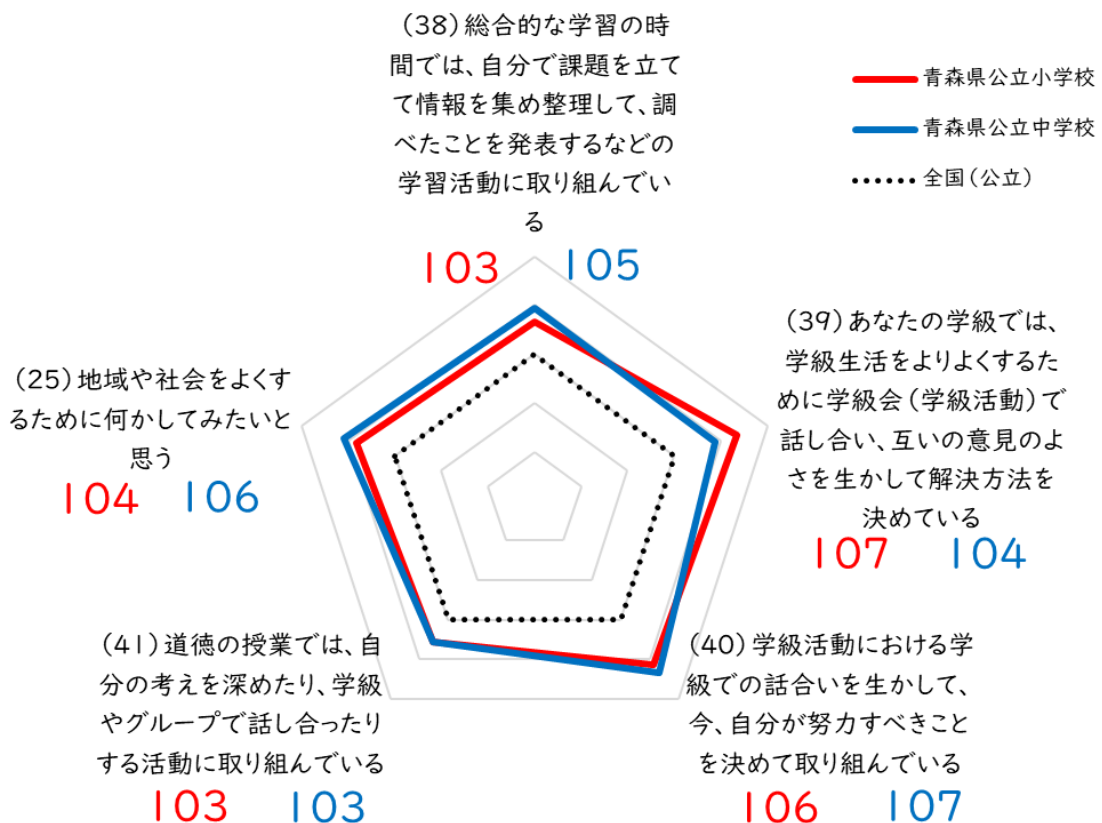
- ・小・中学校ともに(20)「自分で学び方を考え、工夫することはできている」が全国よりも上回っている。一方、平日及び休日における家庭での勉強時間は、全国より少なくなっている。
- ・小学校より中学校の方が、(24)「新聞を週に1回以上読んでいます」(23)「101冊以上の本がある」と回答した割合が高い。

☆以下の回答をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

- ・(20)自分で学び方を考え、工夫することができている。
- ・(21)学校以外に、普段(月曜日から金曜)1時間以上勉強する。
- ・(22)土曜日や日曜日など学校が休みの日に、2時間以上勉強する。
- ・(23)家に101冊以上の本がある。

全国		本県	
小	中	小	中
			0
0			
	0		
0	0	0	0

④総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳、地域や社会に関わる活動の状況等

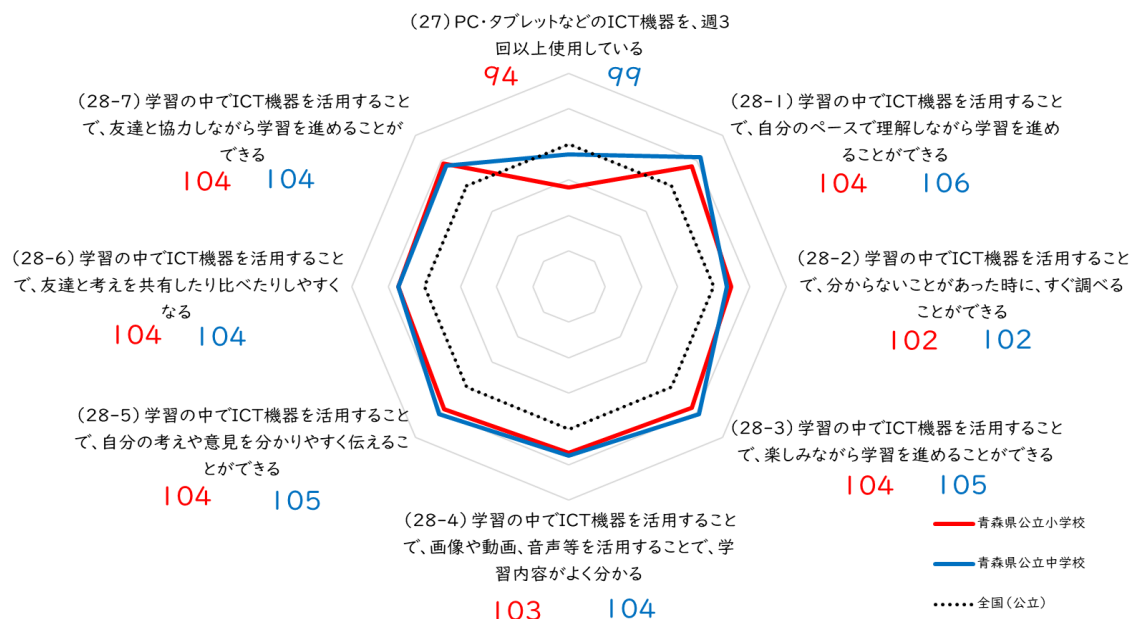


(26) 「放課後や週末に何をしてお過ごしことが多いか」の回答 ※回答が多い順、複数回答可、(%)

小学校		中学校	
家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている	84.1	家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている	90.8
家族と過ごしている	69.7	学校の部活動に参加している	76.3
友達と遊んでいる	60.3	家族と過ごしている	72.1
家で勉強や読書をしている	51.0	友達と遊んでいる	64.5
スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている	48.0	家で勉強や読書をしている	48.5

- ・全ての項目において、全国平均を上回っている。
- ・小・中学校ともに学級活動に関する項目が全国よりも上回っている。小学校では、(39)「話し合いを通して、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている(いわゆる学級活動(1))」割合が特に高く、中学校では、(40)「学級での話し合いを生かして、自分が努力すべきことを決めて取り組む(いわゆる学級活動(2)(3))」割合が特に高い。
- ・放課後や週末の過ごし方については、小・中学校ともに、テレビ・動画・ゲーム・SNSの利用が最も多く回答されている。

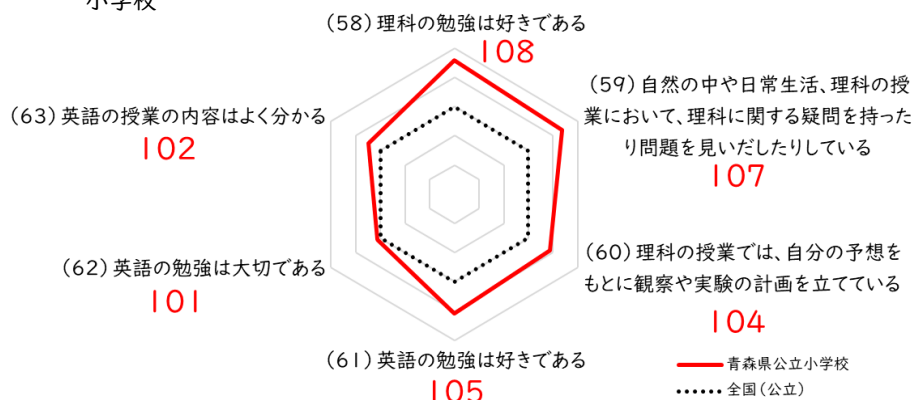
⑤ICT を活用した学習状況



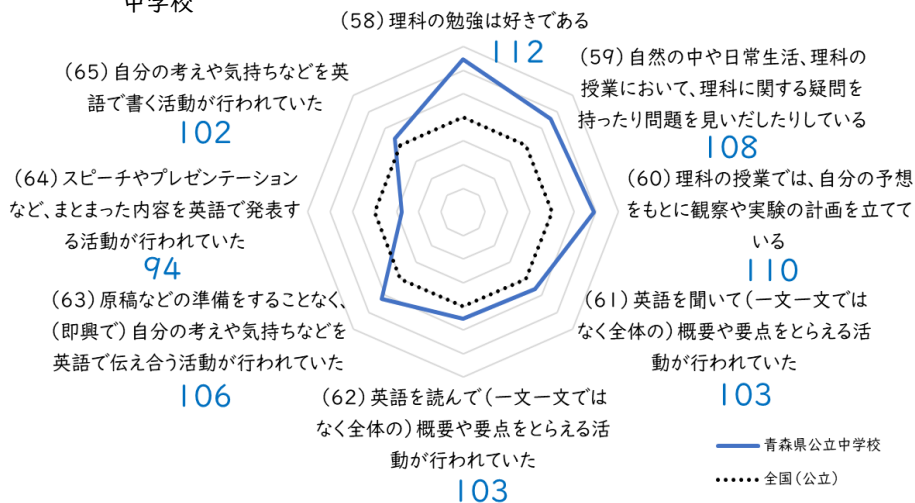
- ・小・中学校ともに、学習の中で ICT 機器を活用している割合が全国よりも上回っている。特に、(28-1)「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と実感している割合が、小・中学校ともに高くなっている。
- ・(27)「ICT 機器を週3回以上使用している」割合は、全国より少なくなっている。

⑥学習に対する興味・関心や授業の理解度等(理科・英語)

小学校



中学校

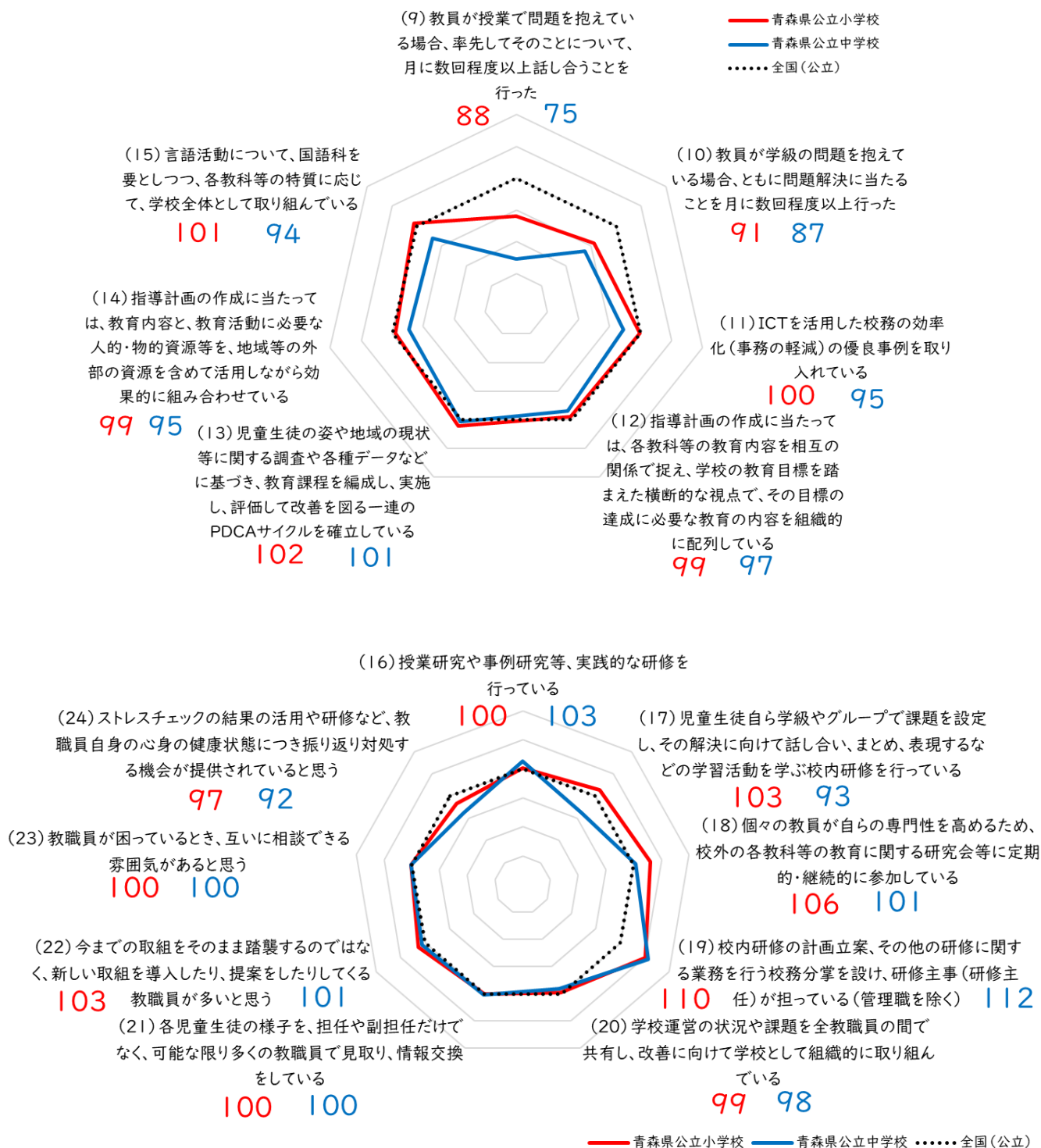


・理科は、小・中学校ともに同じ質問であり、全国よりも上回っている。特に、中学校の方が小学校より数値が高い。

・英語は、小学校と中学校で質問内容が違いますが、小学校では(61)「英語が好きである」、中学校では(63)「自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われている」と実感している割合が、高くなっている。

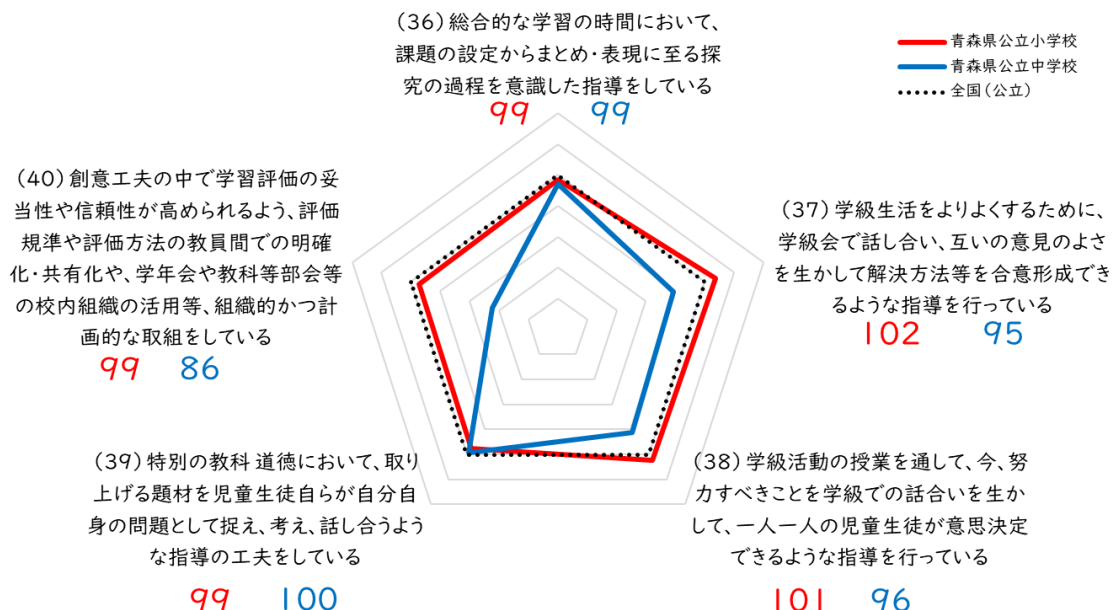
2 学校質問紙

①学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況



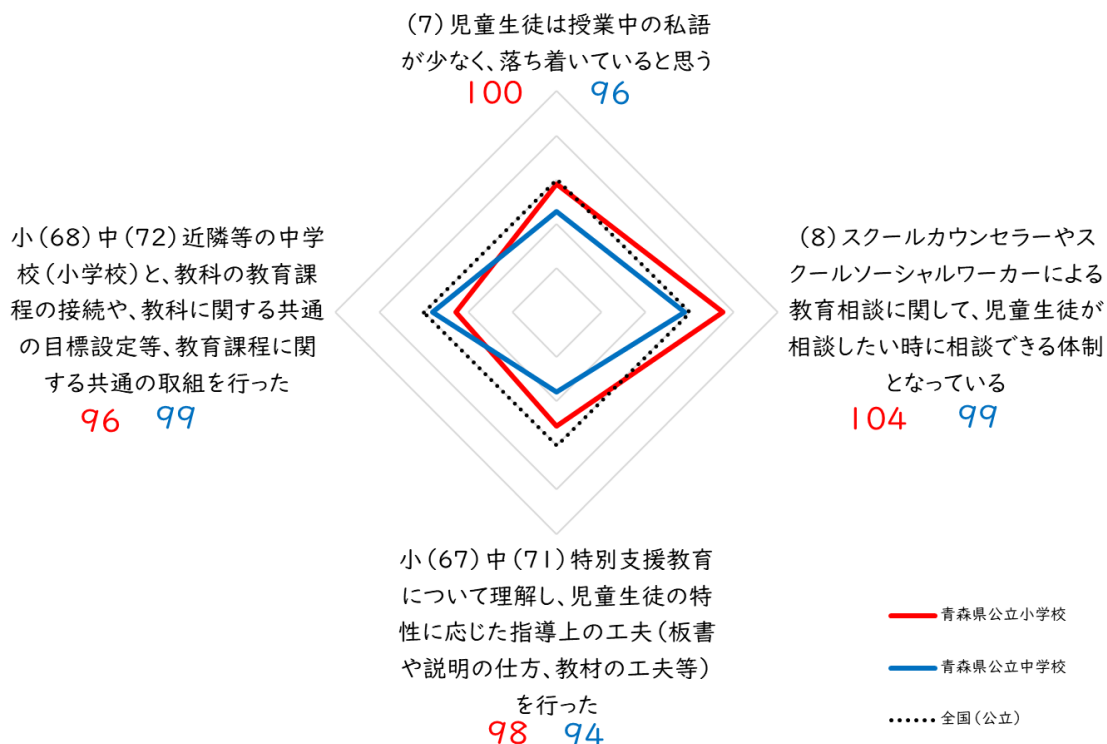
- ・小・中学校ともに、(19)「研修に関する業務を行う校務分掌を設け、研修主事(主任)が担う」が全国より大きく上回っている。
- ・小・中学校ともに、(9)(10)「教員の悩みについて、話し合う(相談する)」ことが、全国を下回っている。

②総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法、学習評価



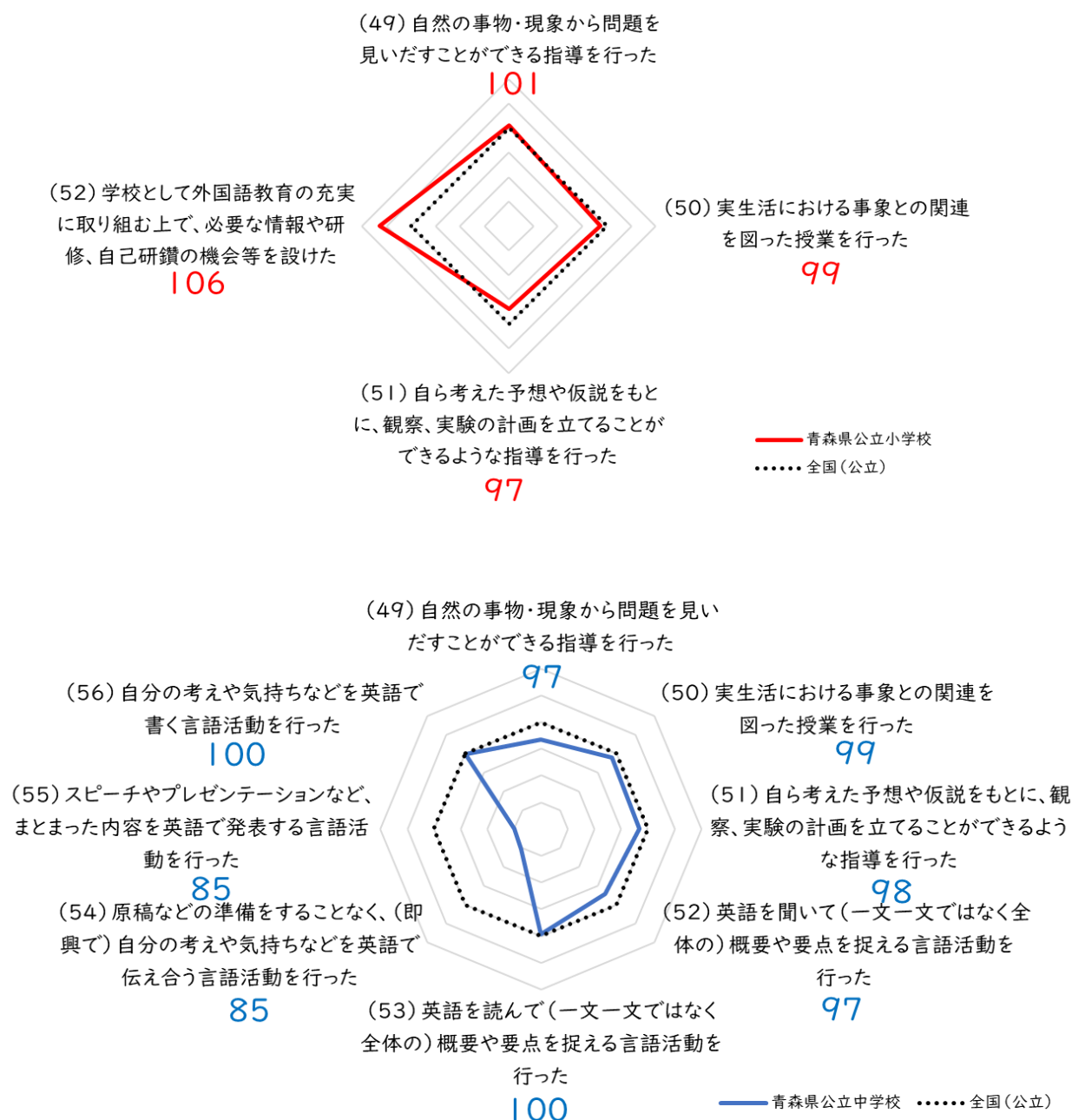
- ・小学校では(37)(38)特別活動に関して全国より上回っており、中学校では(39)道徳に関して全国並みである。
- ・小・中学校ともに(40)学習評価に関して、全国を下回っている。
- ・中学校では(37)(38)特別活動に関して、全国を下回っている。

③生徒指導等、特別支援教育、小学校教育と中学校教育の連携



- ・(7)(8)生徒指導に関して、小学校は全国より上回っており、中学校は下回っている。
- ・小・中学校ともに小(67)中(71)特別支援教育の指導上の工夫に関して、全国を下回っている。
- ・小・中学校ともに小(68)中(72)小学校教育と中学校教育の連携に関して、全国を下回っている。

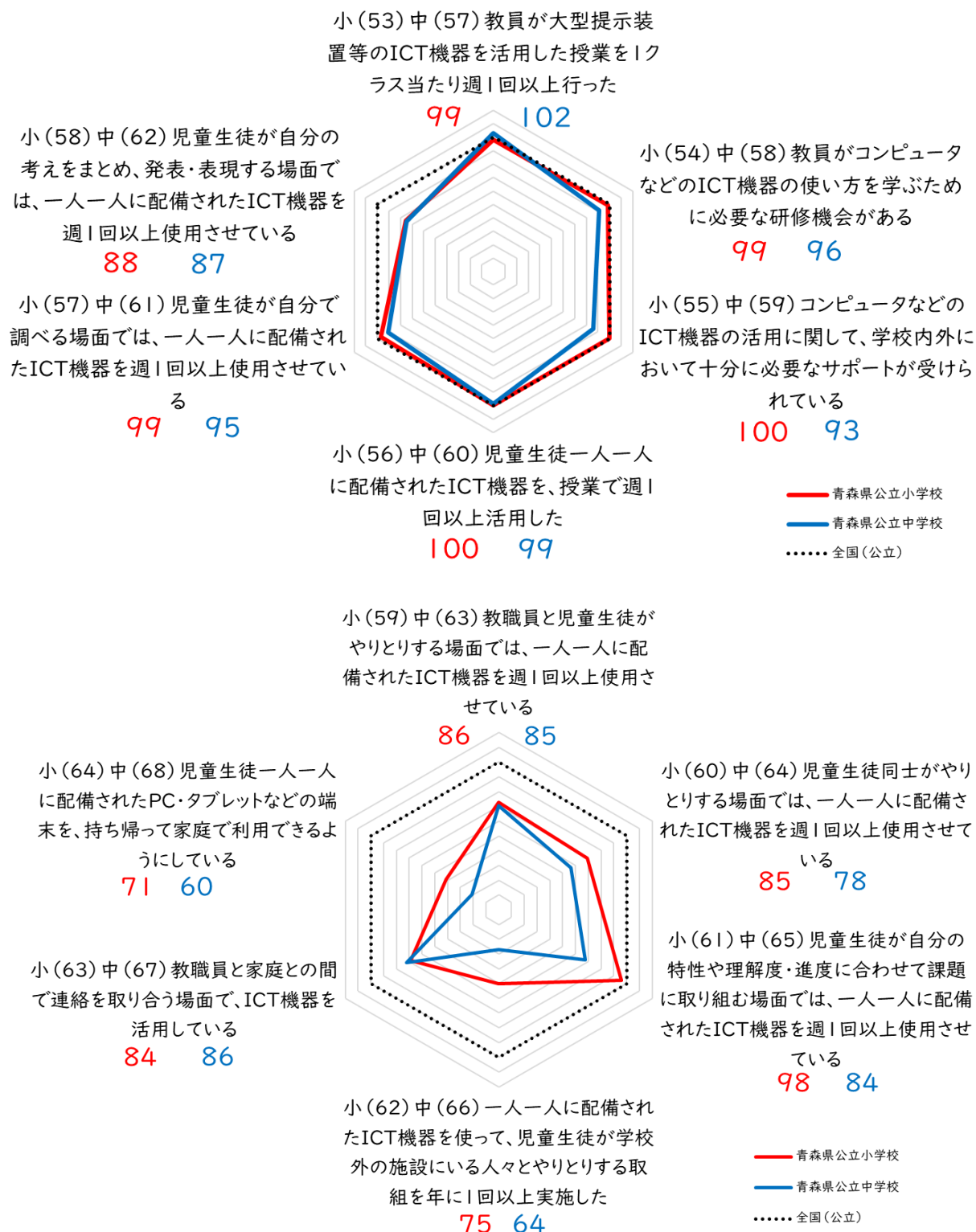
④理科・英語科の指導方法



・理科に関して、(49)「自然の事物・現象から問題を見いだす指導」について、小学校では全国を上回っているが、中学校では下回っている。

・英語に関して、小学校では、(52)「外国語教育の充実に関して、必要な情報や研修、自己研鑽の機会を設けた」について、全国を上回っている。中学校では、(54)「英語で考えや気持ちなどを伝え合う言語活動やまとまった内容を英語で発表する言語活動」について、全国を下回っている。

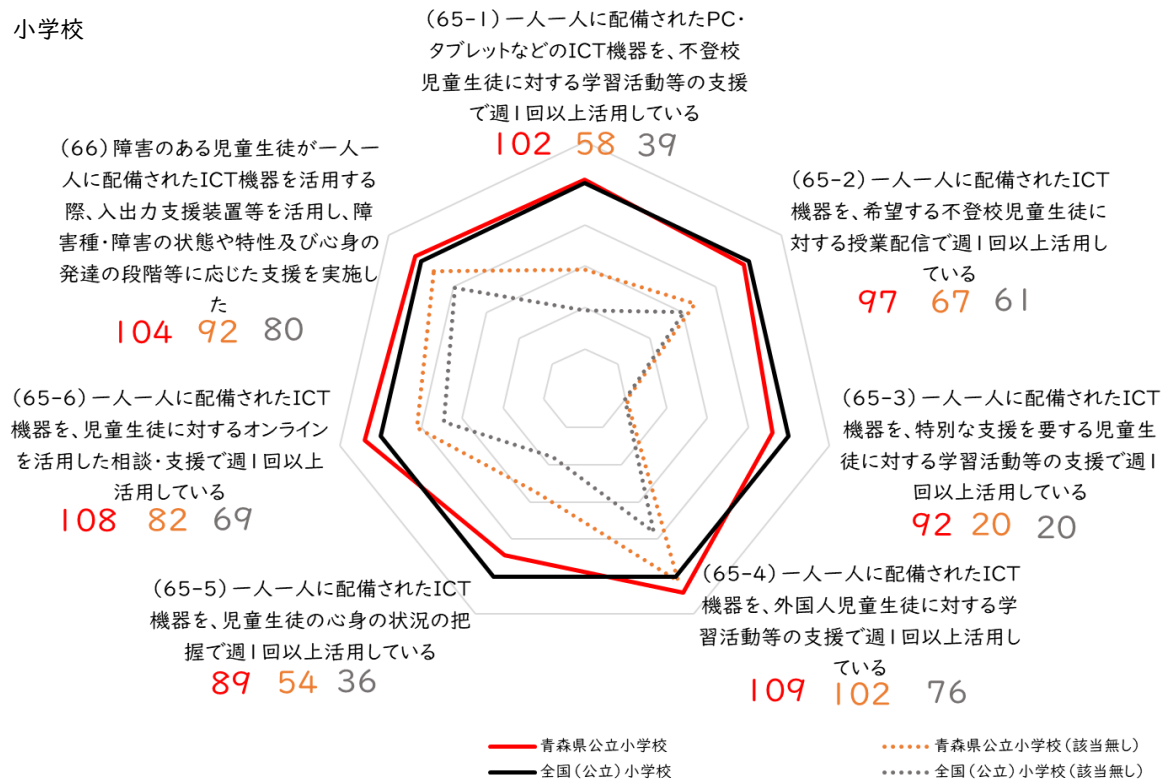
⑤ICT を活用した学習状況



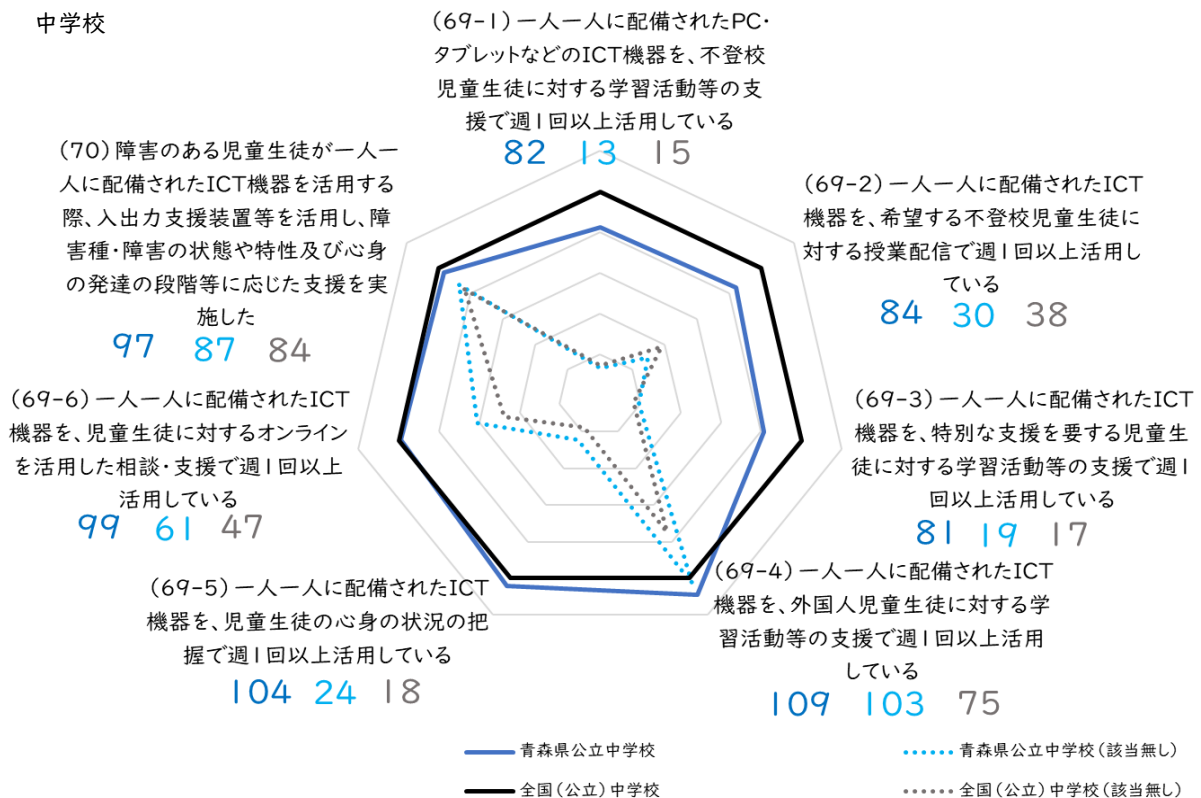
- ・ICT 機器を授業に使う頻度については、小・中学校ともに全国平均並みである。
- ・小・中学校ともに、まとめ・発表・表現での使用頻度、双方向でのやりとりする場面での使用頻度、家庭へ持ち帰っての活用が全国平均を下回っている。

○ICTの活用は使用頻度だけでなく、目的に応じた効果的な使用方法が今後求められていくと考えられる。

小学校



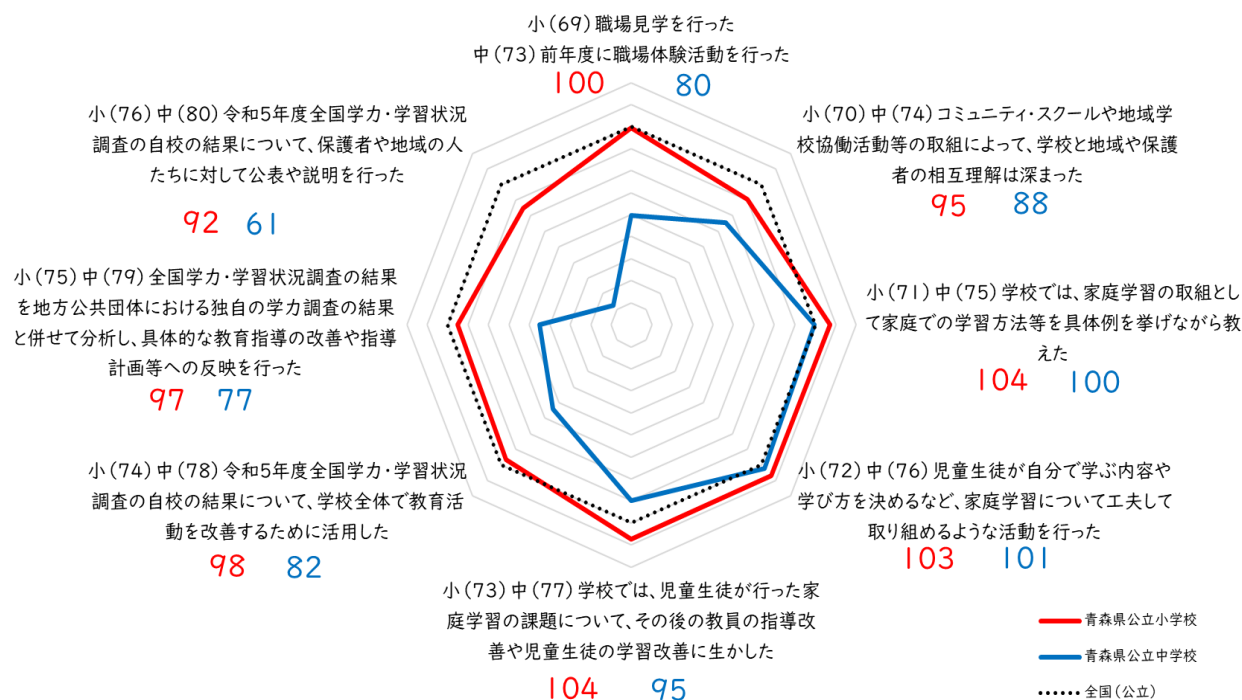
中学校



※上のグラフは各項目における「週1回以上活用している」及び「該当する児童生徒無し」の回答を合わせたものを、全国平均が100となるように作成したものである。また、点線は「該当する児童生徒無し」の回答のみを表している。

- ・ICT 活用の頻度は小・中学校ともに、小(65-4)中(69-4)外国人児童生徒に対する支援で全国を上回り、小(65-3)中(69-3)特別な支援を要する児童生徒への支援で全国を下回っている。
- ・小学校では、(65-5)心身の状況把握のための使用頻度が全国を下回っている。
- ・中学校では、(69-1、2)不登校生徒に対する支援への使用頻度が全国を下回っている。

⑥家庭や地域との連携等、家庭学習、全国学力・学習状況調査の結果の活用



・家庭学習に関する項目については、小学校では全国を上回っているが、中学校ではほぼ全国並みである。

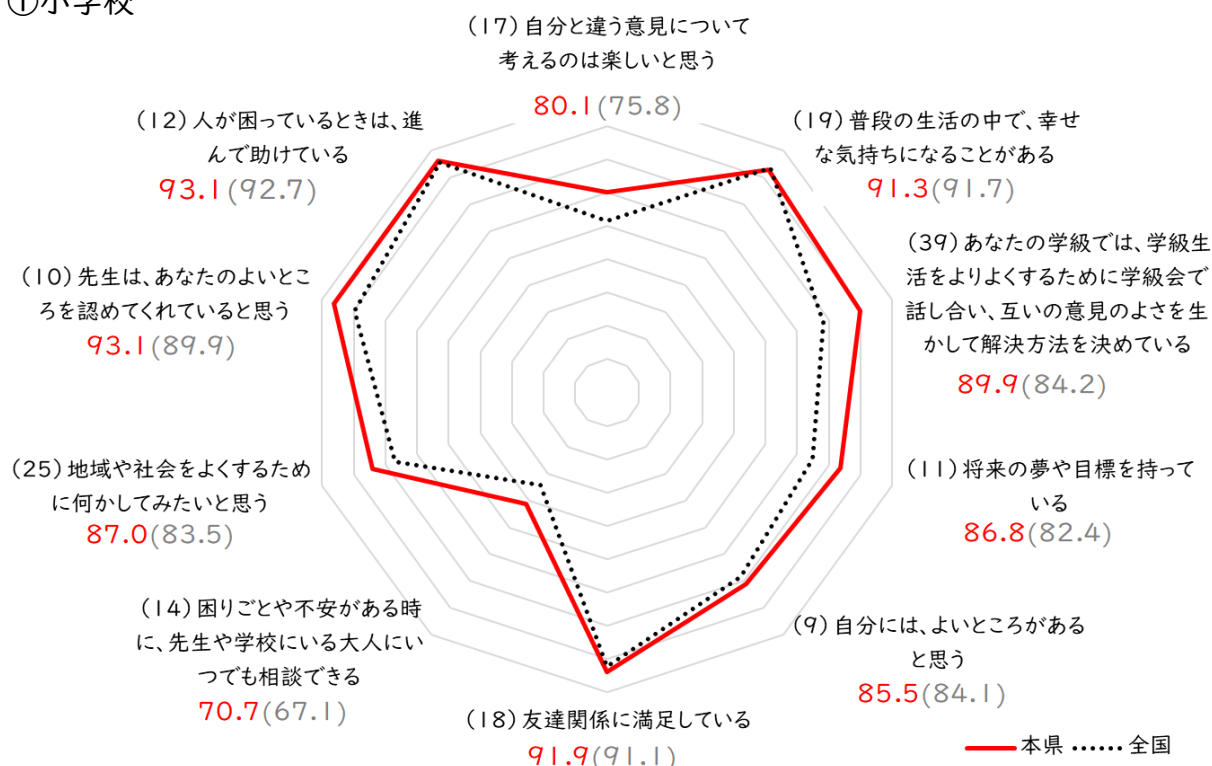
・全国学力・学習状況調査の結果の活用については、小・中学校ともに全国より下回っている。

○全国学力・学習状況調査の結果分析の活用が、各校における教育活動上の課題解決の一助になると考えられるので、各校の実情に応じた有効活用を期待している。

【参考資料】

こどものウェルビーイングに関連すると考えられる項目（児童生徒質問紙調査から）

①小学校



②中学校



上のグラフは児童生徒質問紙調査から、こどものウェルビーイングに関連すると考えられる項目を取り出したものである。なお、このグラフはそれぞれの項目での肯定的な回答の割合を集計したものである。

・小・中学校ともに全国平均をほぼ上回っている。

○各校においては自校の状況を丁寧に捉え、こどもたちがウェルビーイングを実感できるように、学校・地域・保護者が協力してどのようなことに取り組めるのかなどを考察するきっかけにしていなければならないと思います。